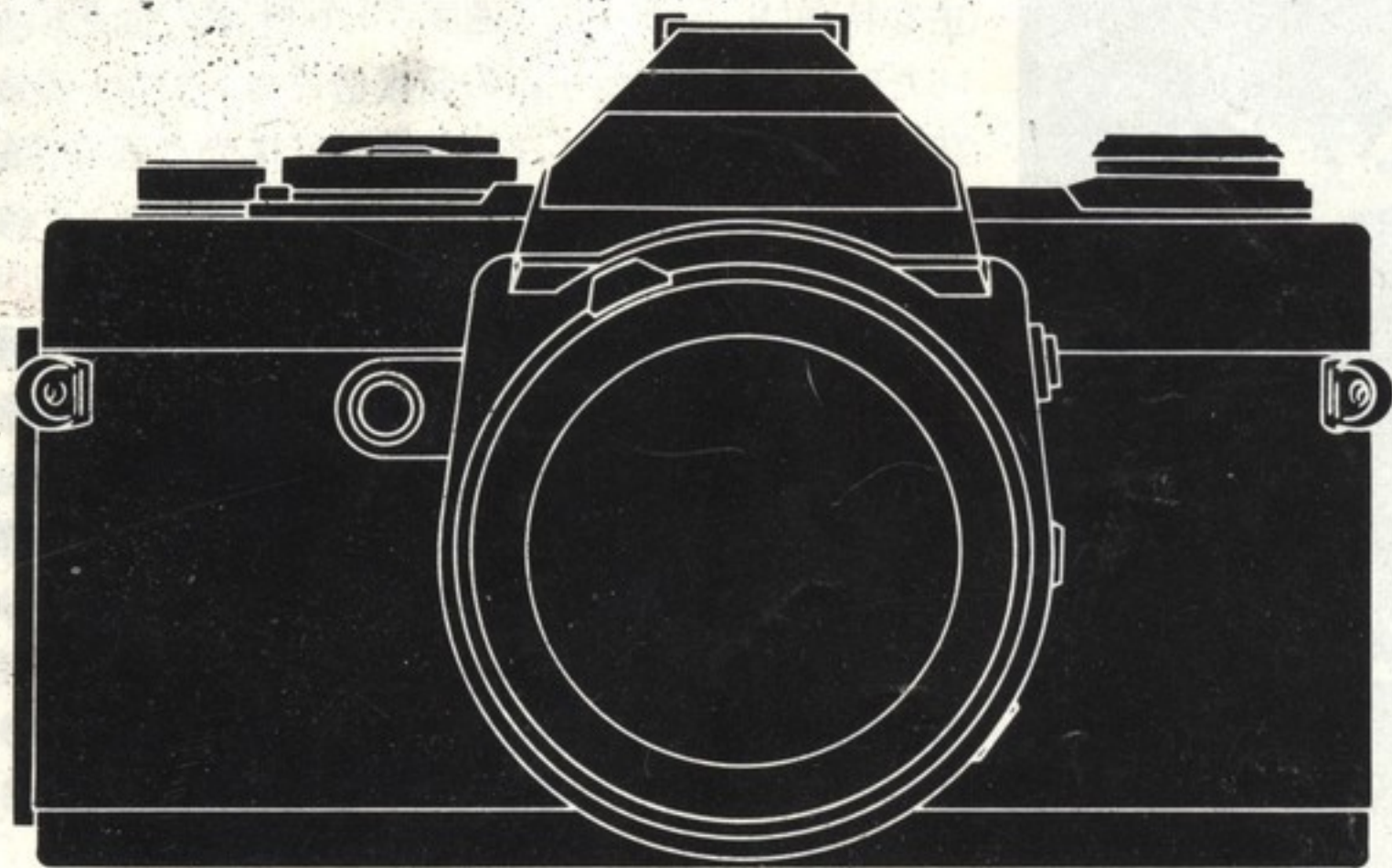


MINOLTA X-7



使用説明書

ご使用前に必ずお読みください



お買上げありがとうございます。

ミノルタX-7は、絞りを決めれば、後はピントを合せてシャッターを押すだけの簡単な操作で、気楽に美しい写真が写せる絞り優先AEカメラです。本機の特徴は、シャッター速度が1/60未満の低速になった時に、電子アラームの発振音でカメラブレを警告、さらにセルフタイマー使用時には光と音で作動を表示することです。

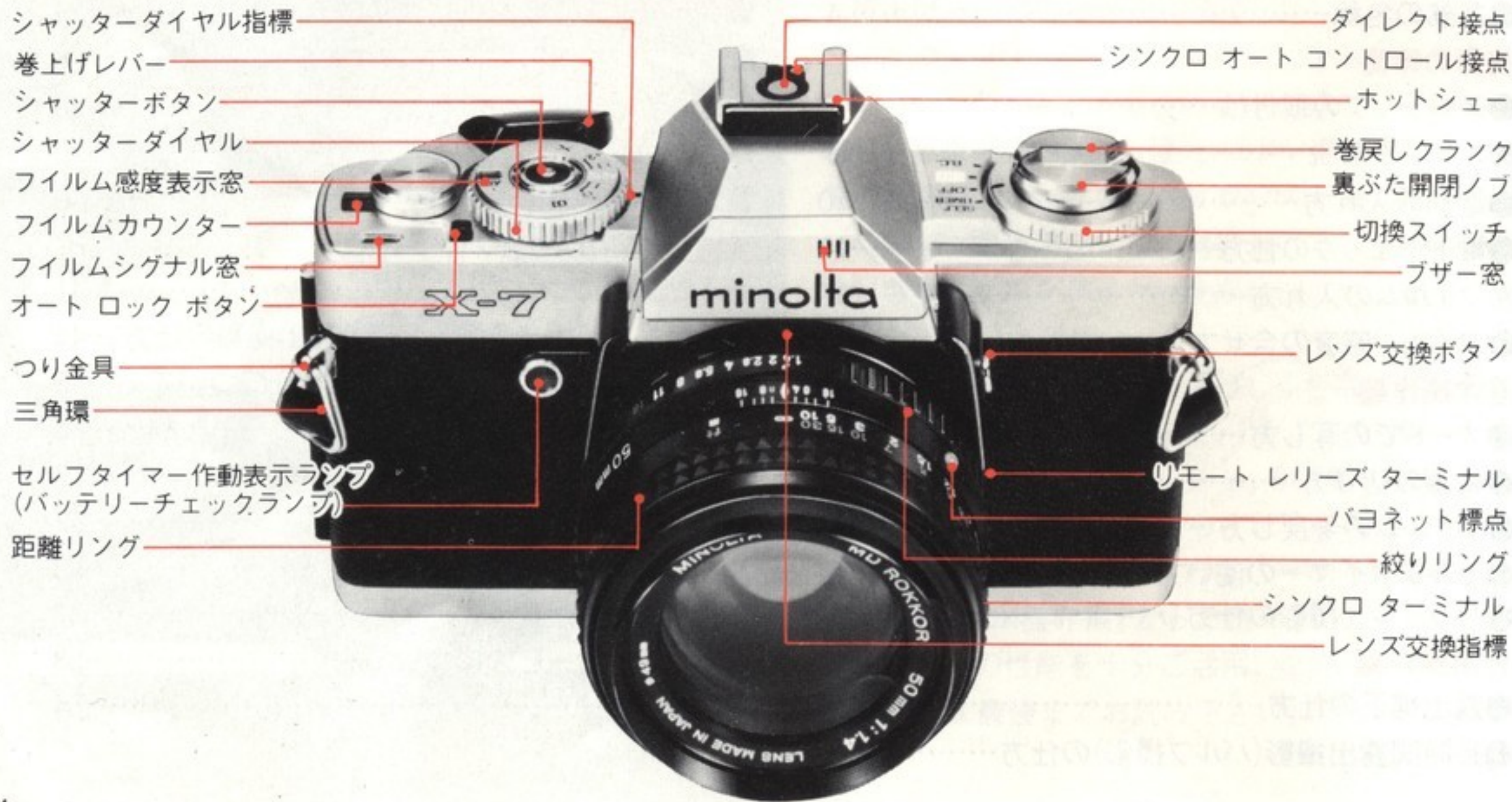
「オートワインダーG」を使えば、1秒間に約2コマの連続撮影ができます。また、「ミノルタ Xシリーズのオートエレクトロフラッシュ」を使用すれば、簡単な操作で暗い部屋や夜でもオートで写せます。初めてカメラを使用される方は、一般的な撮影手順を示した『基本操作編』からお読み下さい。

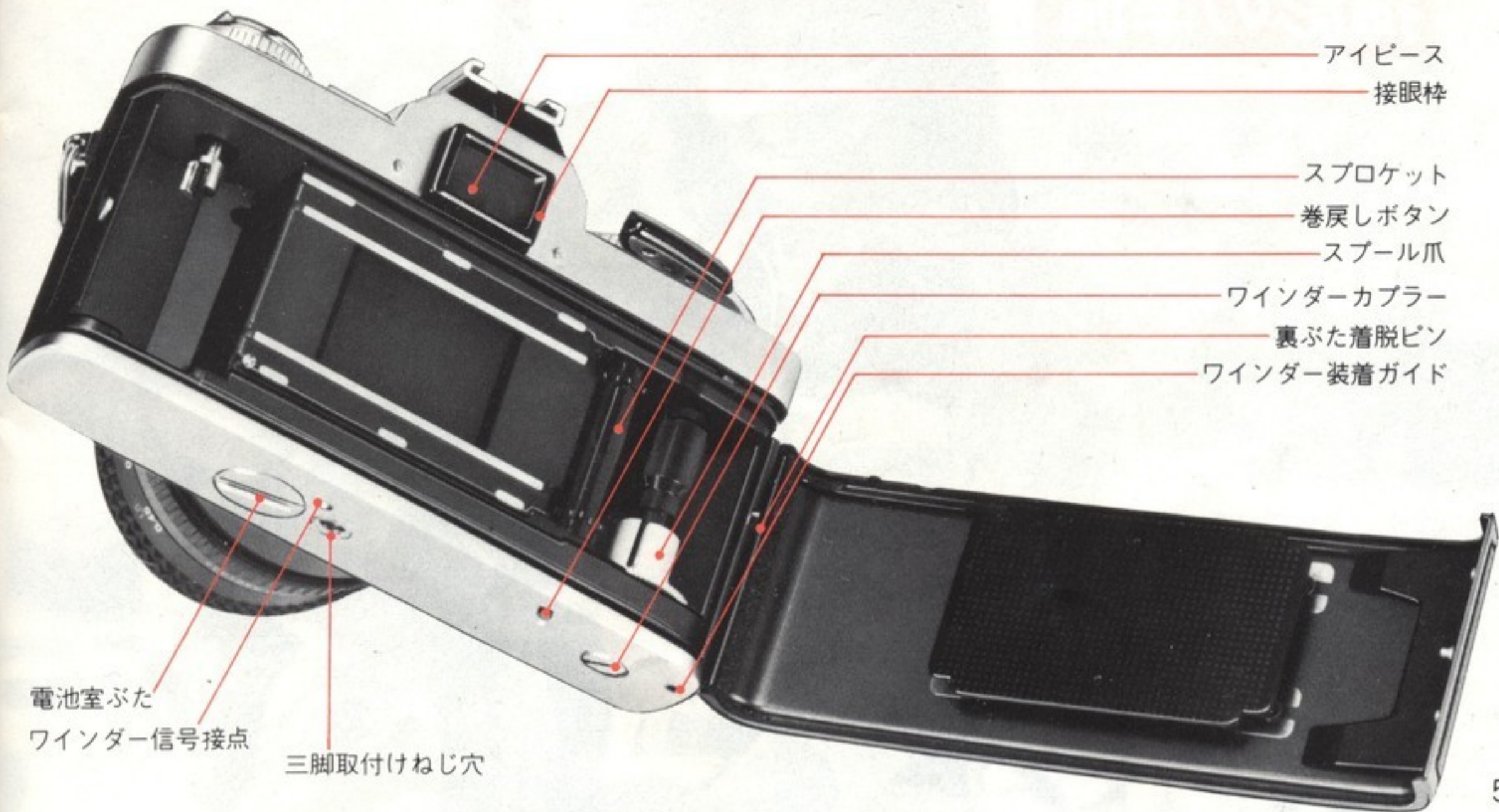
更に、X-7の性能を十分ご活用いただくために、使用説明書は最後までお読み下さい。

●目次

- 各部の名称……………4
- 撮影の準備**
- ストラップの取付け……………7
- レンズの着脱……………8
- 電池の入れ方……………10
- 電池チェックの仕方……………11
- フィルムに入れ方……………12
- フィルム感度の合せ方……………15
- 基本操作編**
- オートでの写し方……………17
- 電源の切り方……………22
- フィルムの巻戻し方……………22
- セルフタイマーの使い方……………24
- フラッシュ撮影の仕方(パート1)……………26
- 応用操作編**
- 露出補正の仕方……………29
- 長時間露出撮影(バルブ撮影)の仕方……………32
- シャッター速度を先に決めて写す方法……………34
- フラッシュ撮影の仕方(パート2)……………36
- 被写界深度について……………38
- 深度目盛……………39
- 赤外線写真撮影……………40
(レンズのRマークについて)
- 連動範囲について……………41
- 付属品を使用する場合の自動露出撮影の仕方……………44
- シャッターボタン(測光スイッチ)について……………45
- ケース(別売)の着脱……………46
- 専用アクセサリ……………47
- 手入れの仕方……………52
- 保管の仕方……………53
- 取扱い上の注意……………53
- アフターサービスについて……………53
- 主な性能……………54

●各部の名称





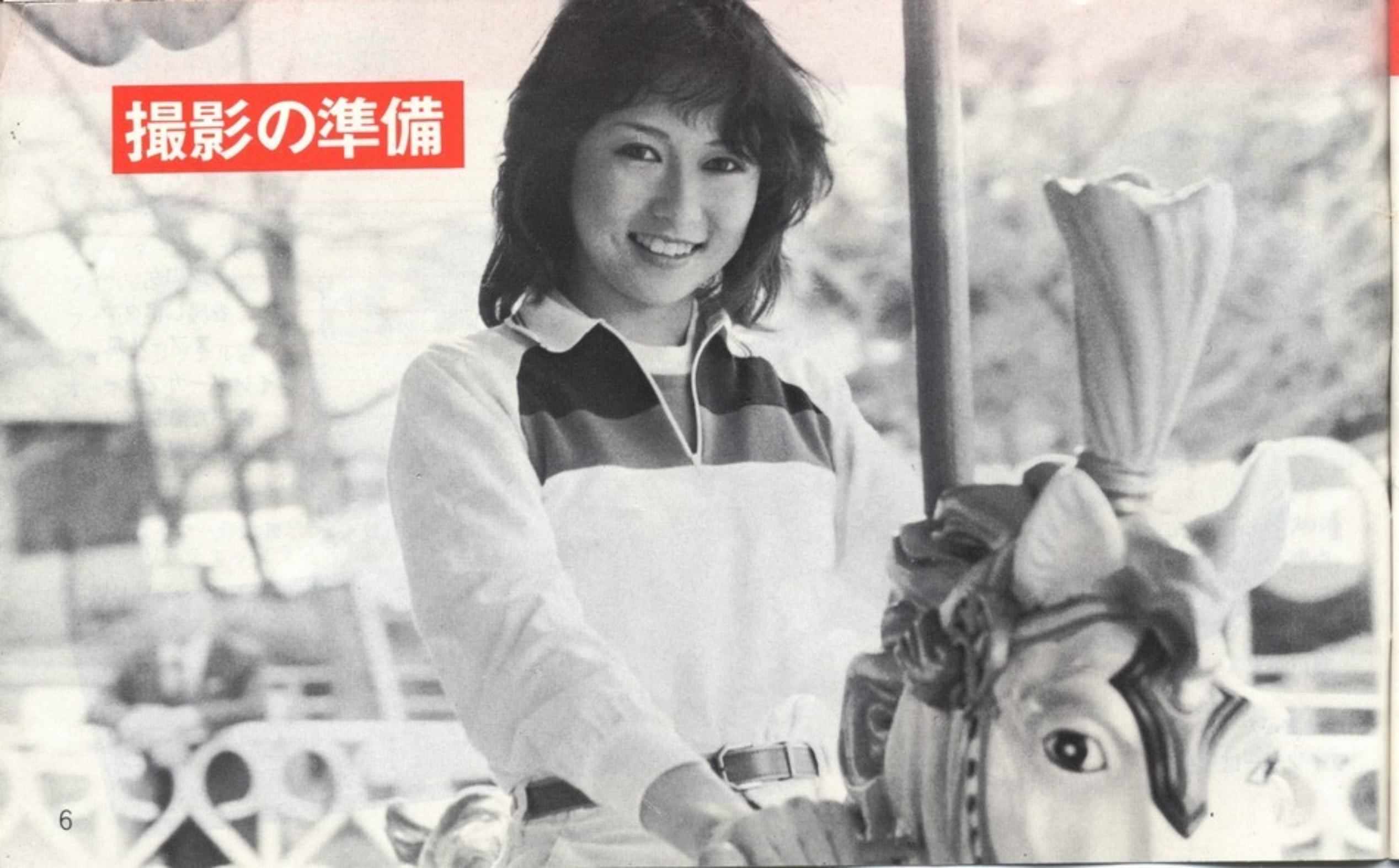
アイピース
接眼枠

スプロケット
巻戻しボタン
スプール爪

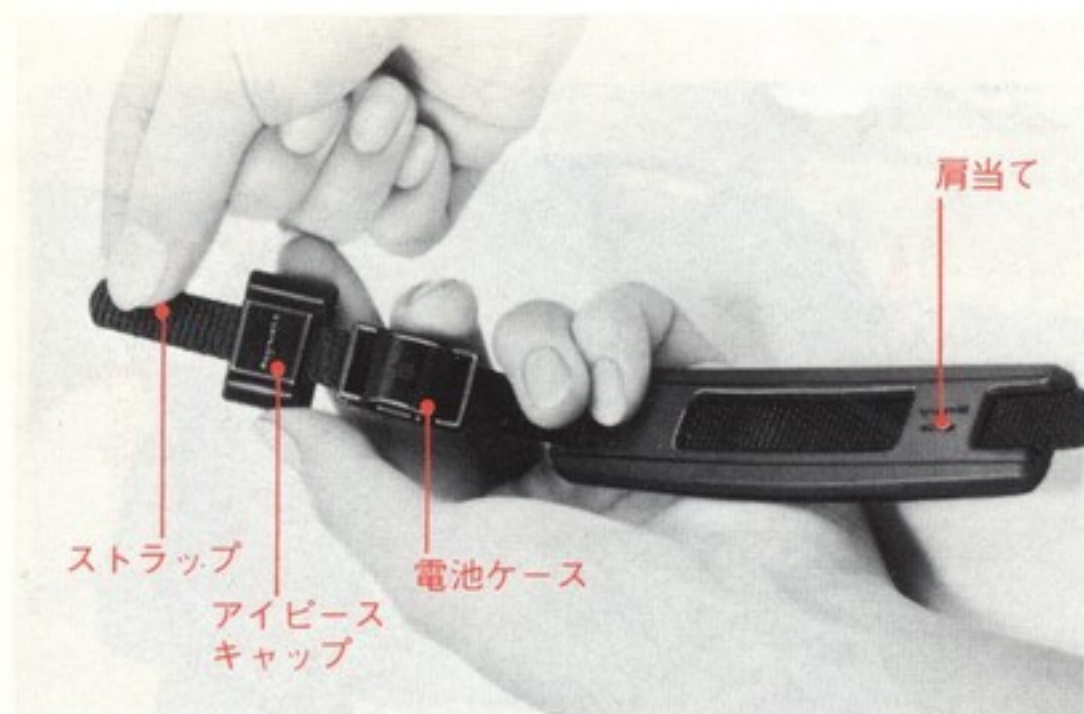
ワインダーカプラー
裏ぶた着脱ピン
ワインダー装着ガイド

電池室ぶた
ワインダー信号接点
三脚取付けねじ穴

撮影の準備

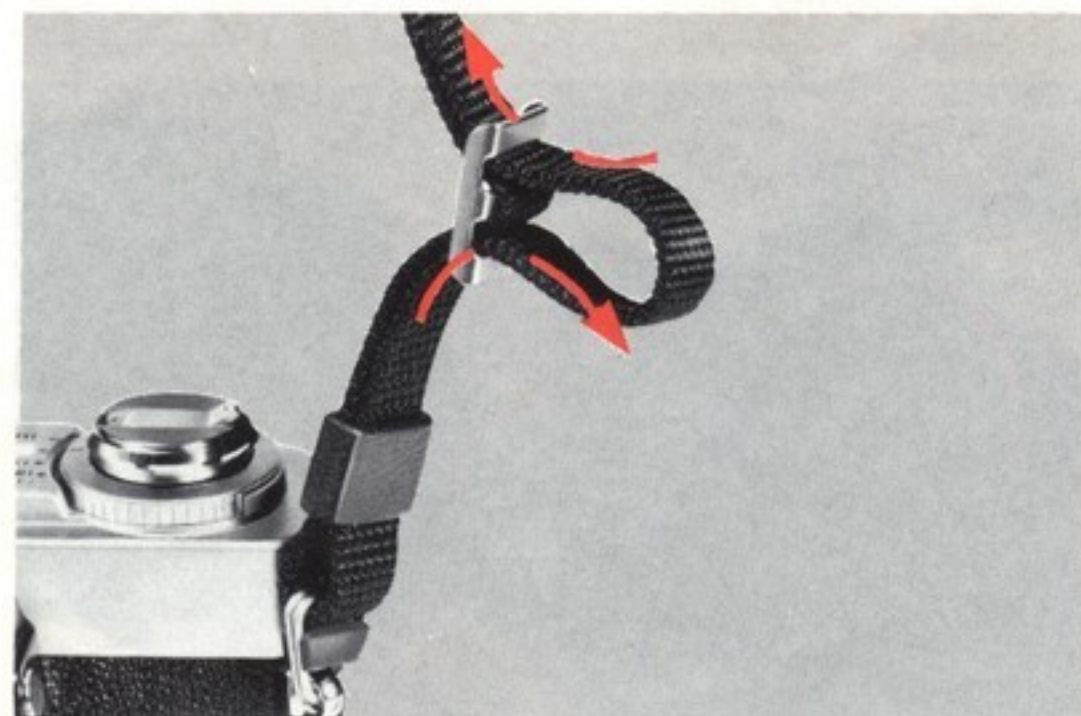


●ストラップの取付け



1 ストラップを肩当て、電池ケース、アイピースキャップに通します。

●電池ケースには予備の電池が入ります。



2 ストラップの両端を三角環に通して固定します。

●レンズの着脱

1. レンズを取付け



1 ボディキャップとレンズ後キャップを外します。



2 レンズキャップを外します。

2. レンズの取外し

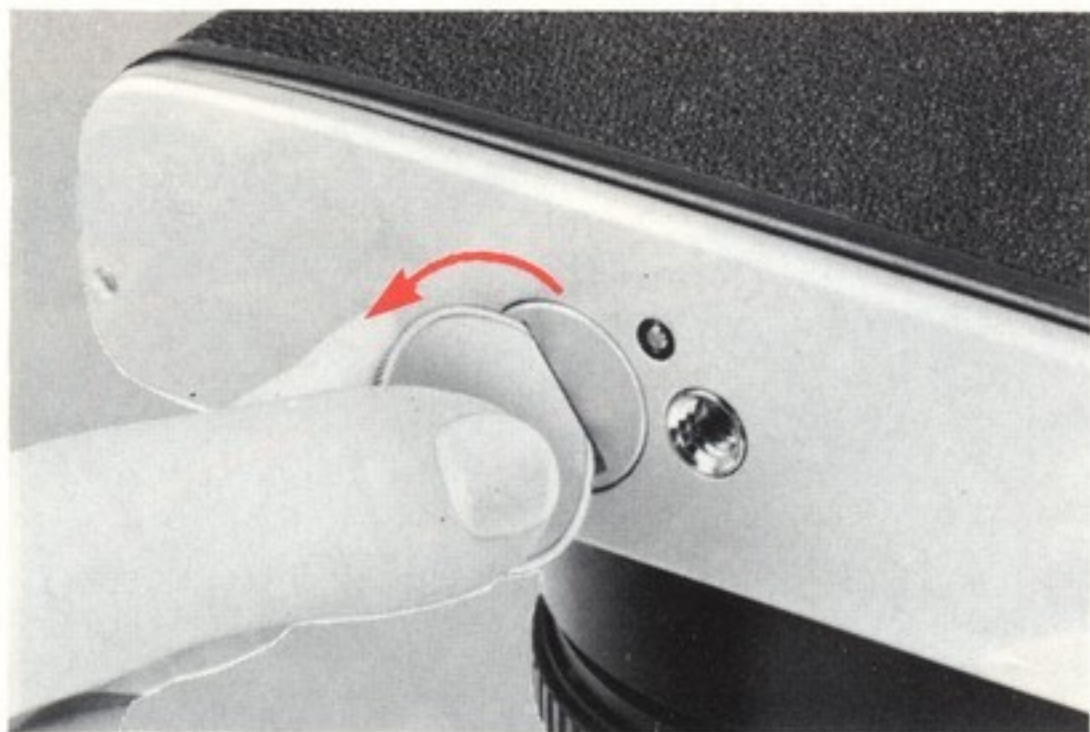


3 レンズの赤点をボディの赤指標に合わせてはめ込み、ロックがかかるまで回して取付けます。

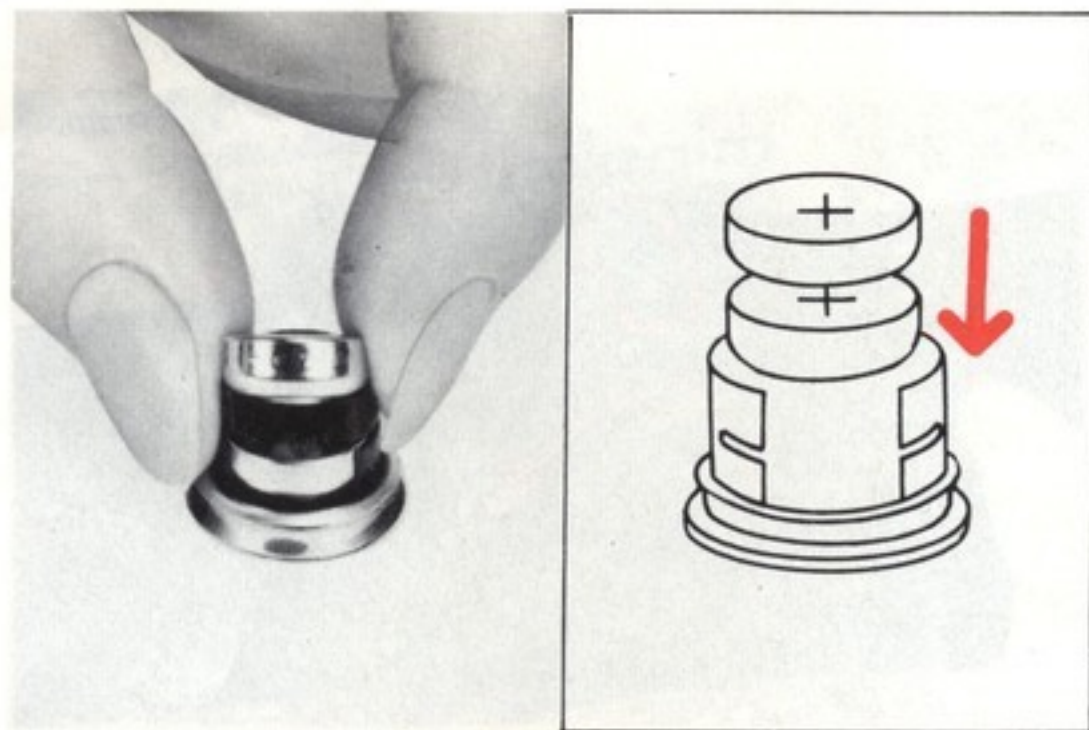


レンズ交換ボタンを押したまま、止まるまで回して、前方に引出して外します。

●電池の入れ方



1 電池室ぶたを外します。



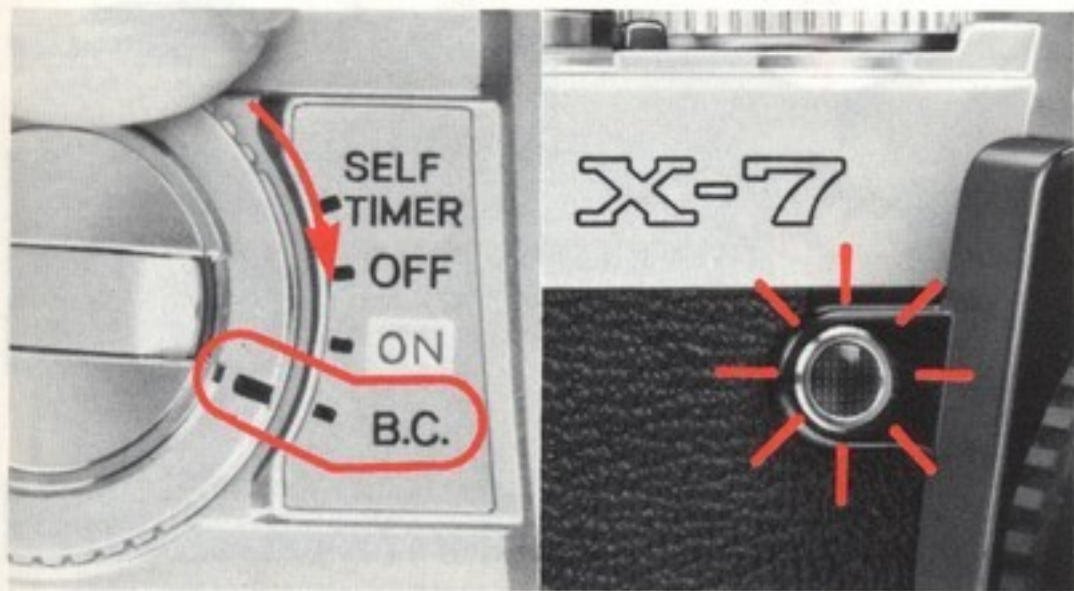
2 銀電池G-13型(JIS SR-44)を2個入れます。
3 電池室ぶたを閉めます。

使用する電池



●電池チェックの仕方

電池を入れた時や、カメラをしばらく使わなかった時は、電池のチェックをします。



切換スイッチをB.C. (バッテリーチェック) に合せ
バッテリーチェックランプが点灯すればOK。

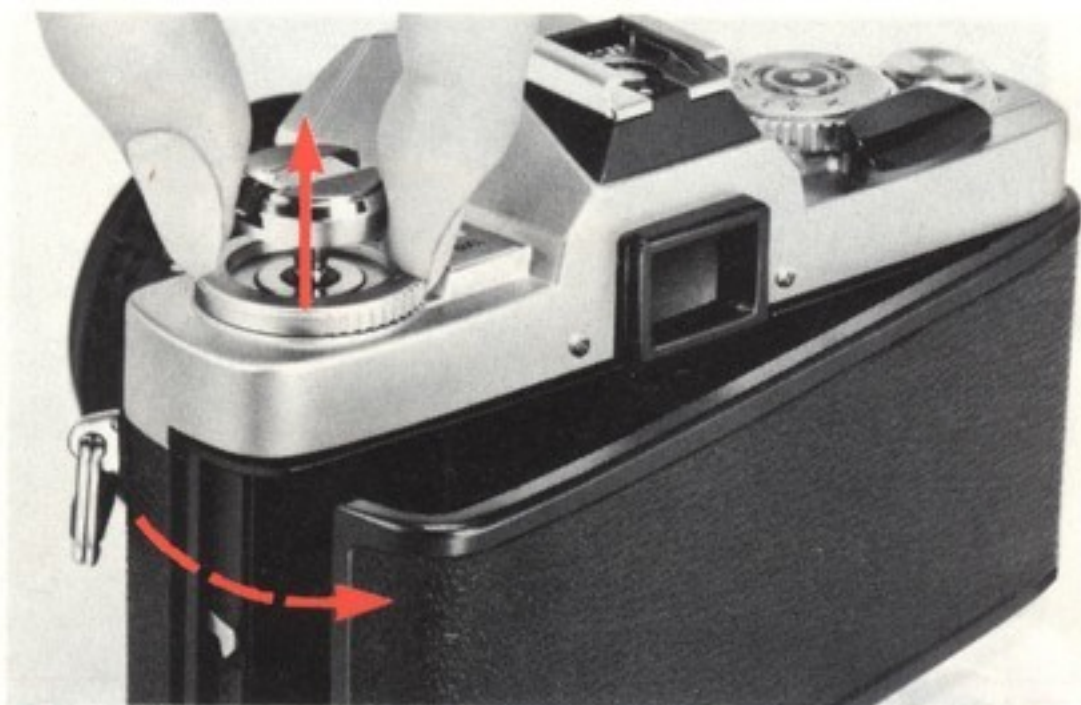
★バッテリーチェックランプが点灯しない時は、
銀電池の入れ方が間違っているか、銀電池が
消耗したからです。入れ直すか、交換して下
さい。

音による電池チェック

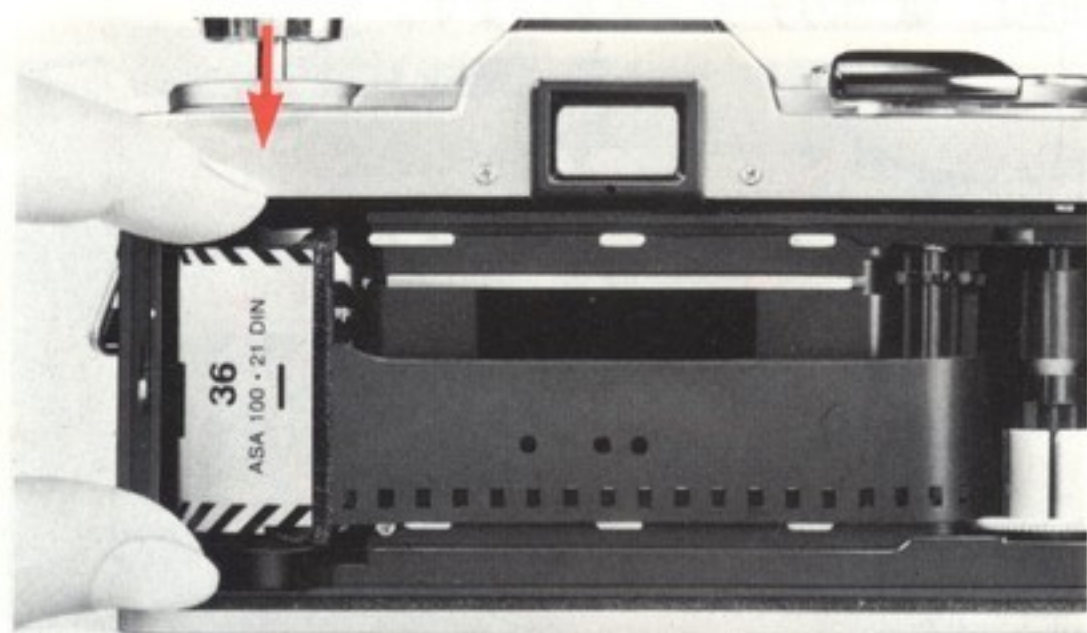
切換スイッチをバッテリーチェックに合せたまま、
シャッターボタンに指を触れます。電子アラームの
音がすれば電池OKです。

★電子アラームの音がしない時は、バッテリー
チェックランプも点灯しません。電池を入れ
直すか、交換して下さい。

●フィルムに入れ方



1 裏ぶたを開けます。

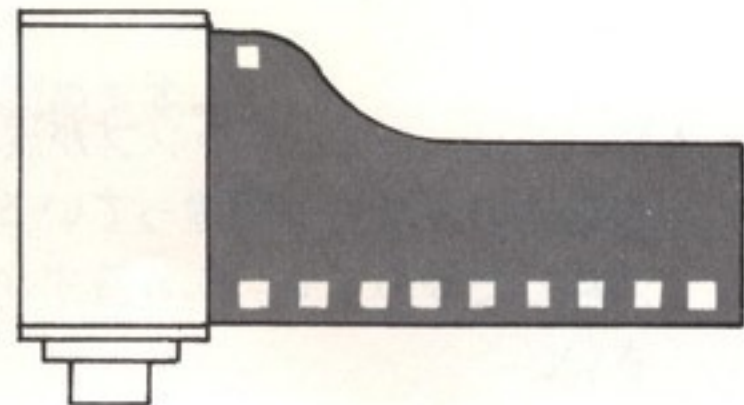


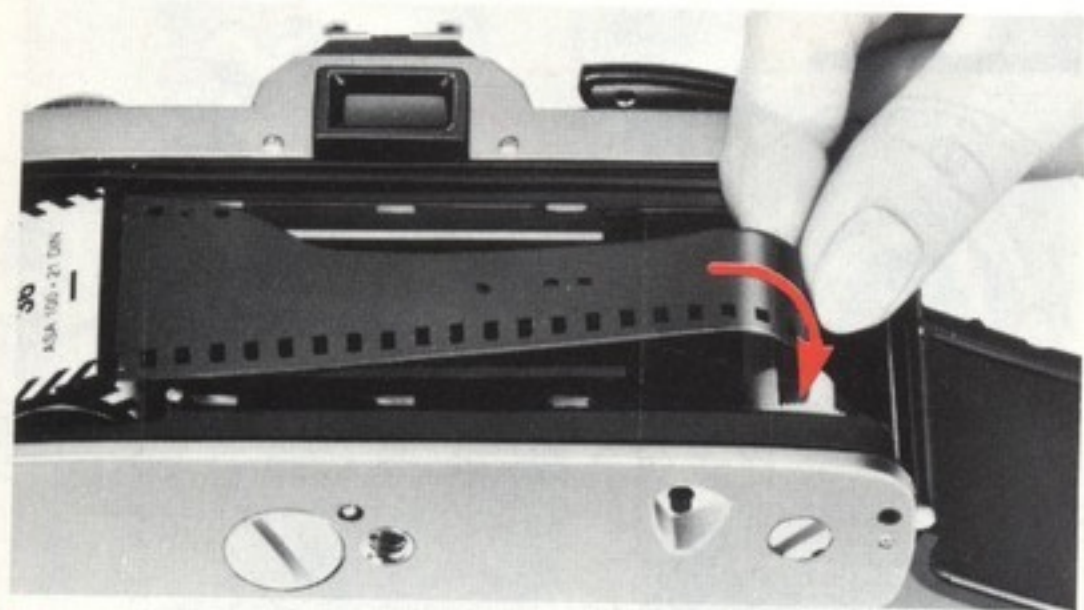
2 フィルムを入れます。

使用するフィルム

パトローネ入り35mmロールフィルム(J 135タイプ)。

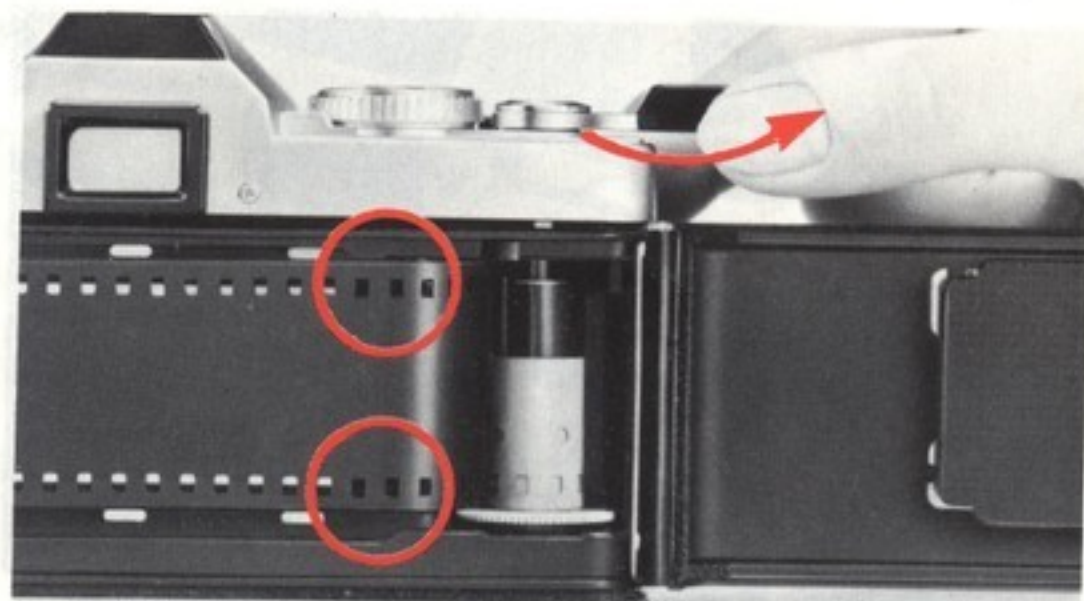
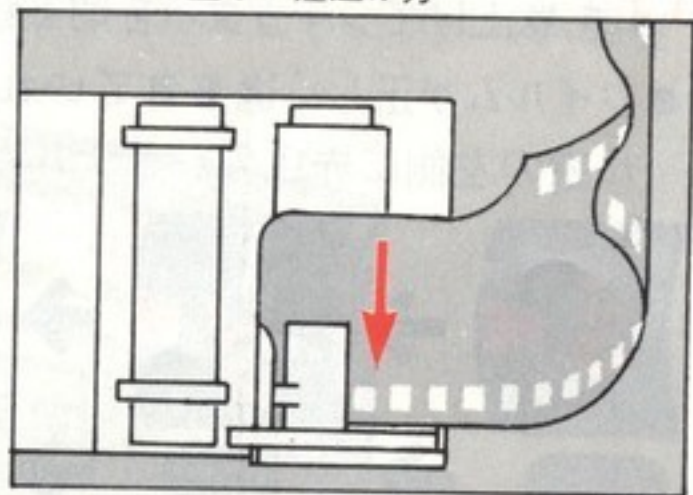
フィルムの出し入れは、直射日光の当たらない場所で行なって下さい。



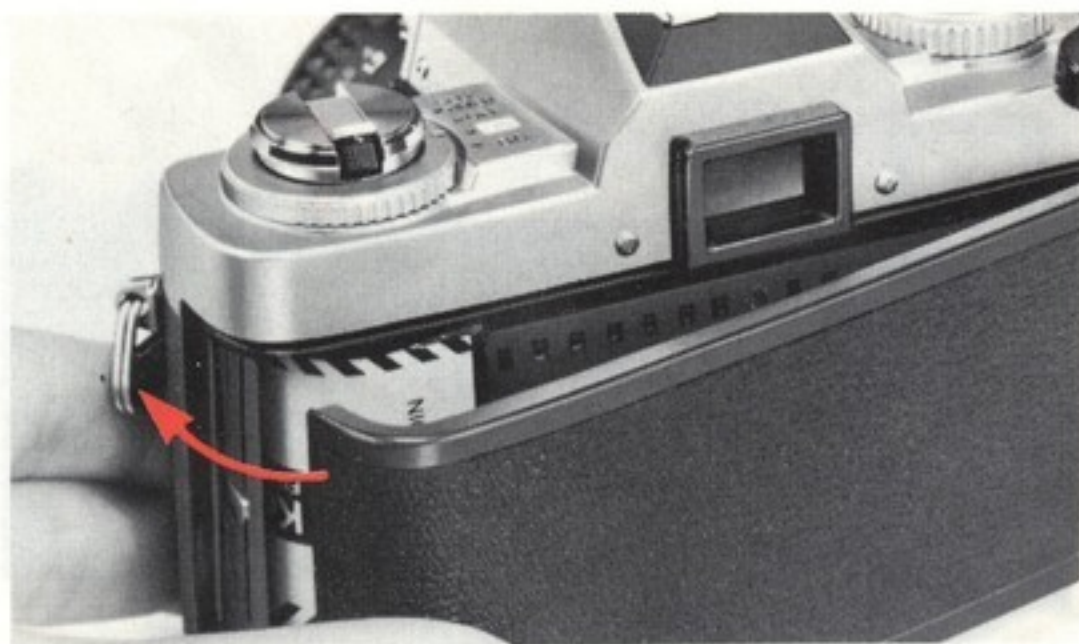


3 フィルムの先を差込みます。

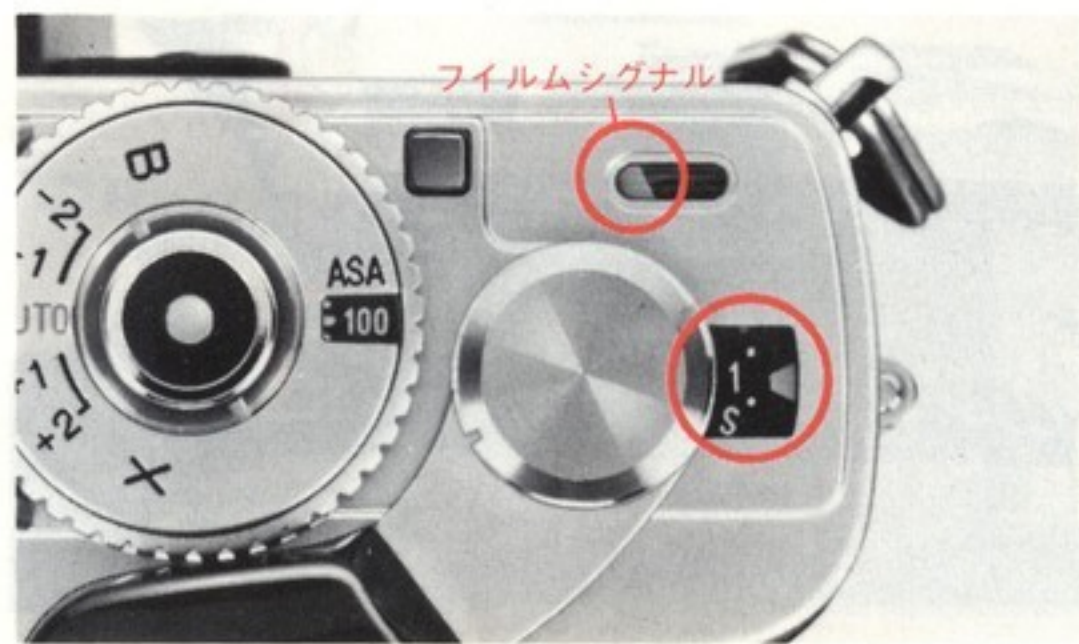
フィルムの正しい差込み方



4 フィルムの上下の穴がスプロケットの歯にかみ合うまで、巻上げてシャッターを切る操作を繰り返します。



5 裏ぶたを静かに閉じます。



6 フィルムカウンターが1になるまで、フィルムを巻上げてシャッターを切る操作を繰り返します。

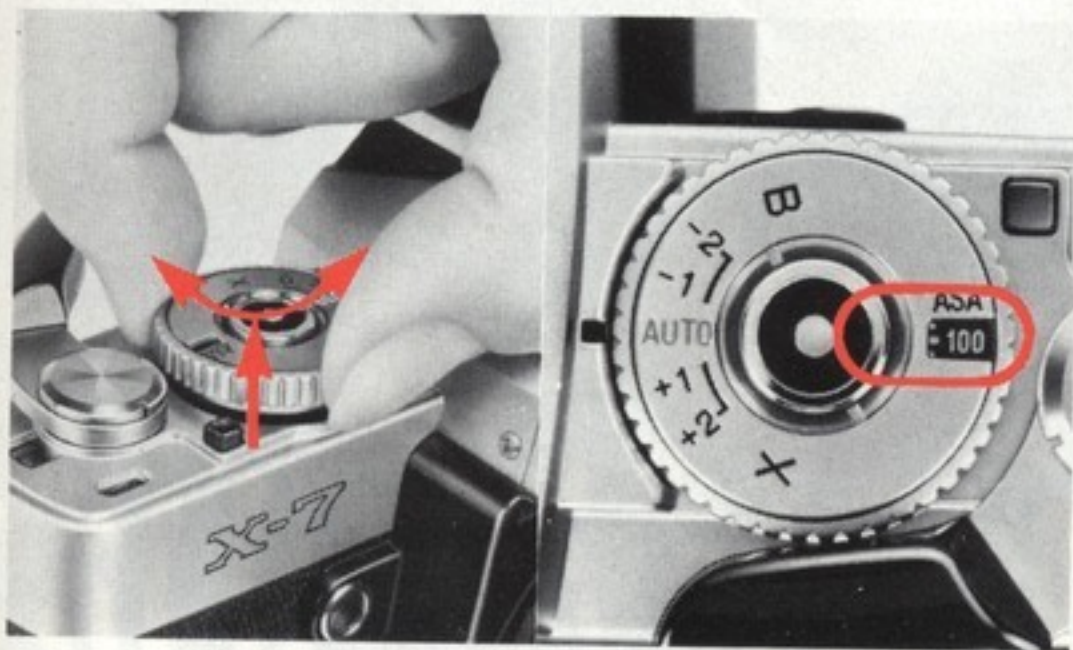
- フィルムが正しく送られていればフィルムシグナル窓の左側に赤色のシグナルが出ます。

フィルムカウンター



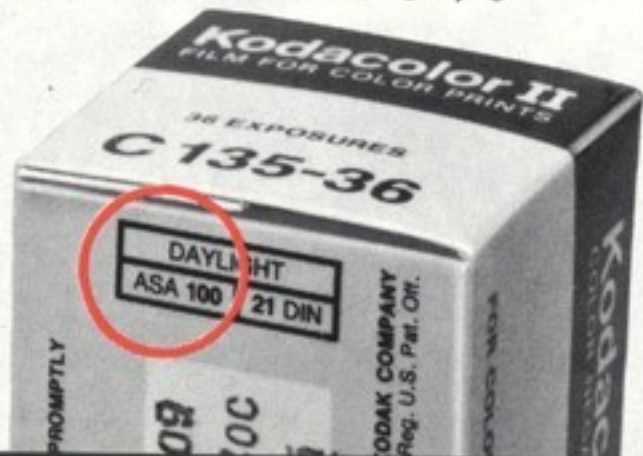
フィルムシグナル

●フィルム感度の合せ方

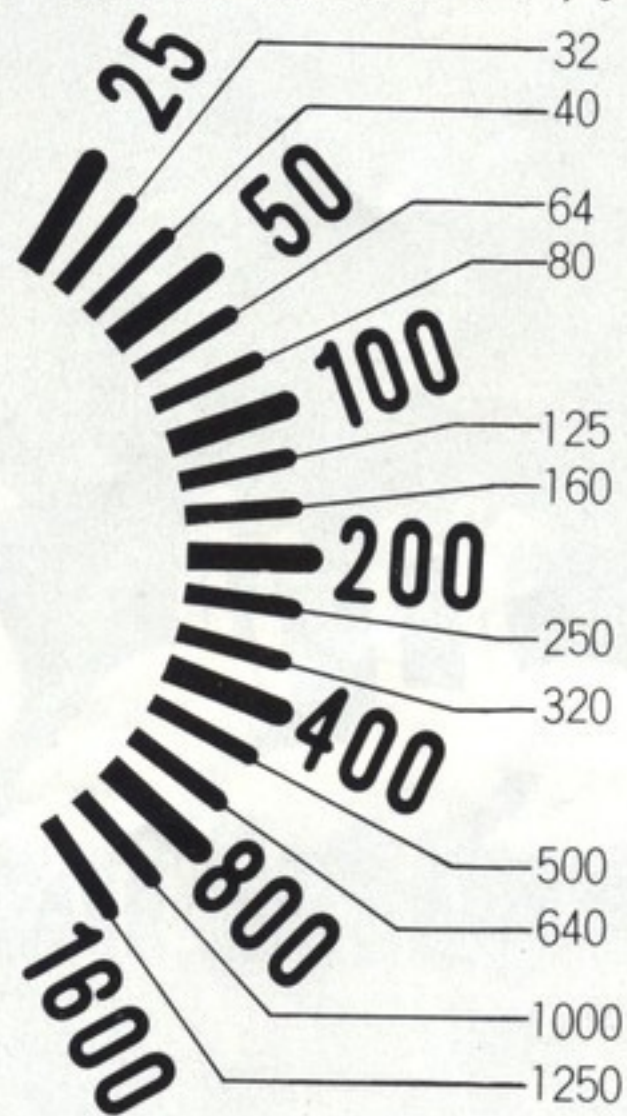


フィルム感度(ASA感度)を合せます。

- 例えば、ASA100のフィルムなら、フィルム感度表示窓に100をセットします。



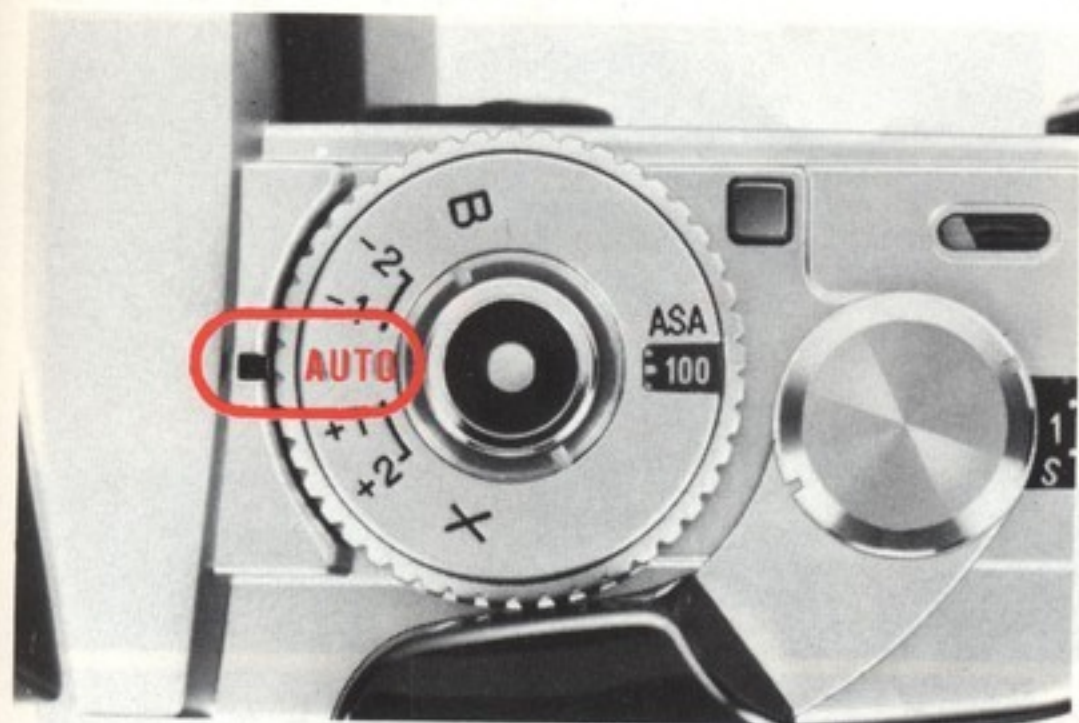
- フィルム感度の数値は、次のとおりです。



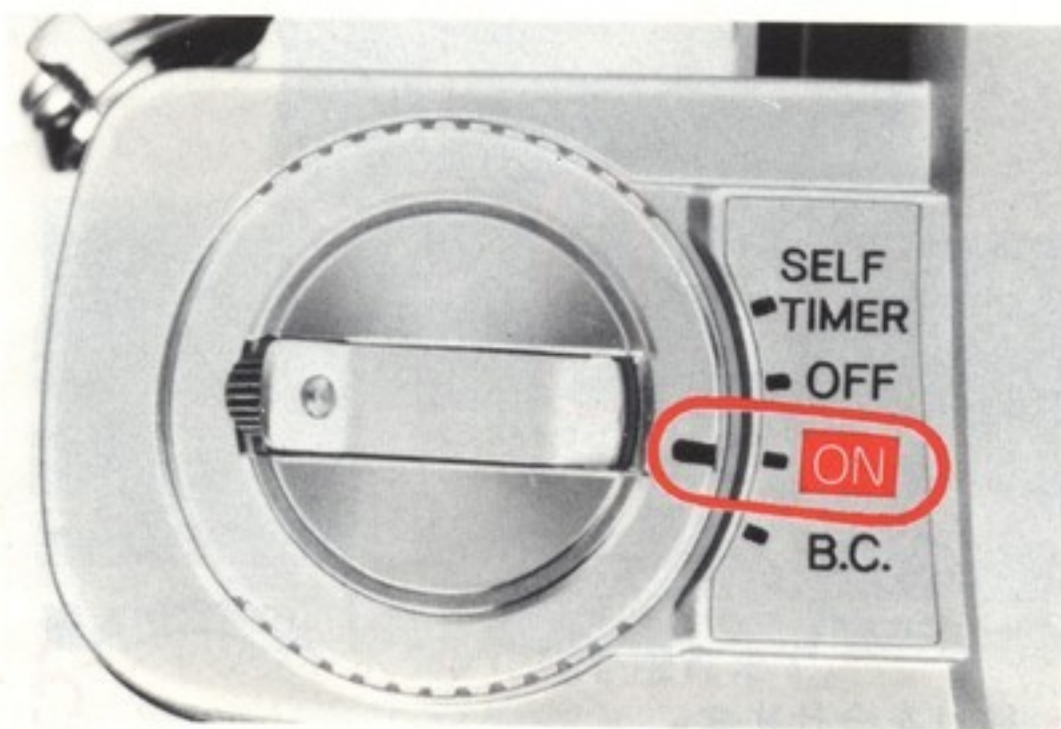
基本操作編



●オートでの写し方



1 シャッターダイヤルのAUTOを指標に合せます。



2 切換スイッチをONに合せます。



3 絞りを合せます。



4 ファインダー(アイピース)をのぞいたまま、距離リングを回してピントを合せます。

ピントが合っている状態



ピントが合っていない状態



5 シャッターボタンに指を触れます。

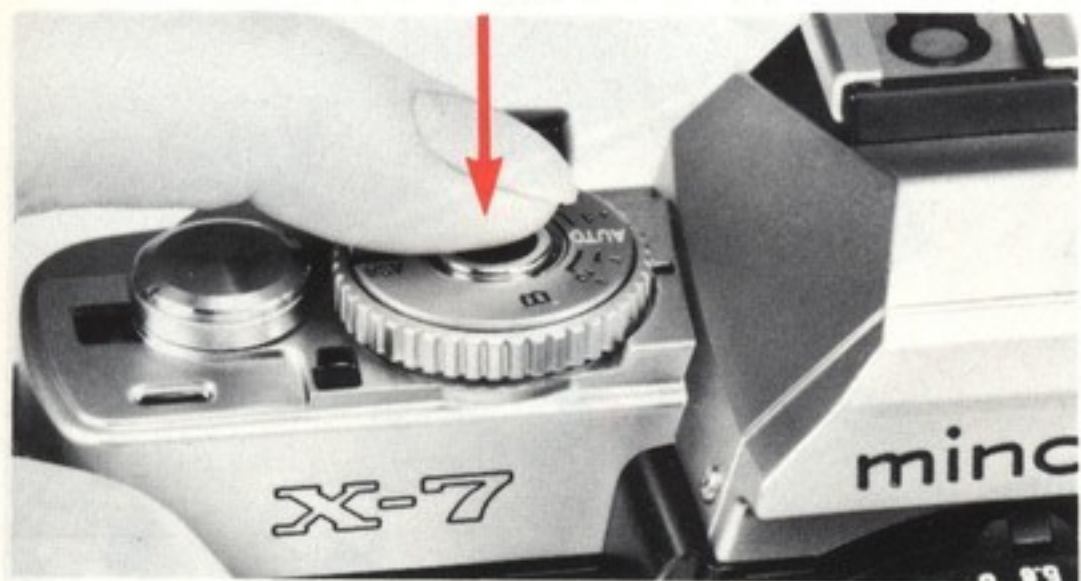
- 電子アラームの音がする時はブレやすくなりますので、音がしなくなるまで、絞りを開ける方向 (F1.4の方向) に絞りリングを回すか、フラッシュ撮影 (26ページまたは36ページ参照) して下さい。
- 電子アラームの音がしている状態で、フラッシュを使わずに撮影する場合は三脚をご利用ください。



- ファインダー内に▲の光が点灯した時は、1/1000秒より速いシャッター速度を表し、シャッターボタンを押してもシャッターは切れません。絞込む方向(F16の方向)に絞りリングを回して下さい。
- ▼の光が点灯した時は1秒以上の長秒時を表わします。

- X-7のファインダー視野率は実際に撮影される画面の約93%です。撮影時にファインダーをのぞいて見た視野よりも実際の撮影画面はやや広く撮影されます。

★撮影されたプリント用フィルムからサービスサイズにプリントしたり、スライド用のフィルムをマウントすると、実際に撮影した画面よりやや狭くなります。撮影の際に画面の周辺部に少し余裕をとることをおすすめします。



6 シャッターボタンを押して撮影します。

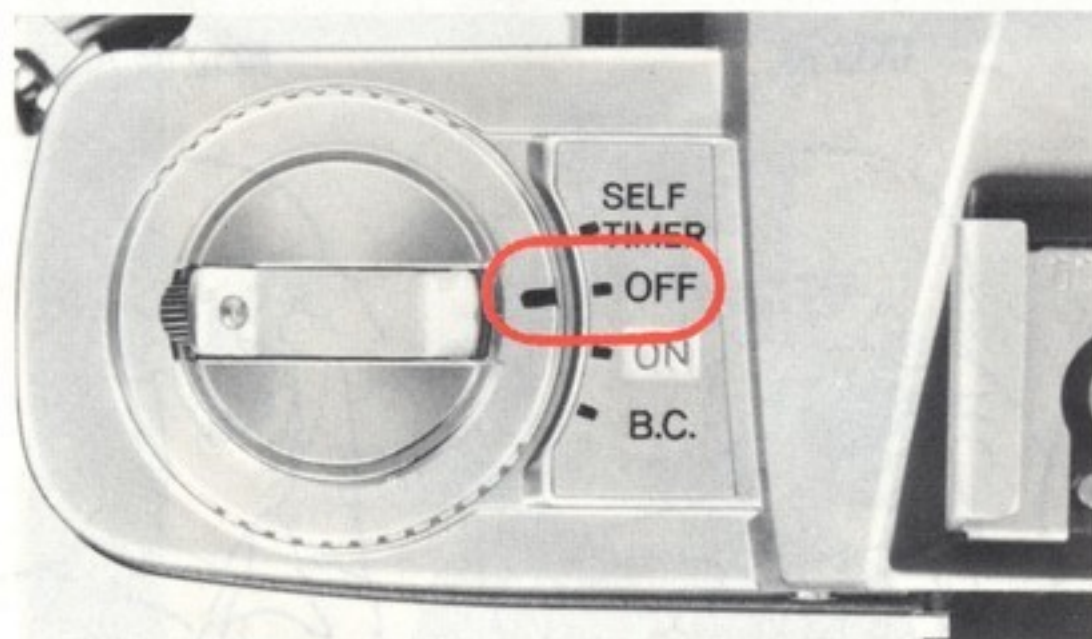
横位置



縦位置



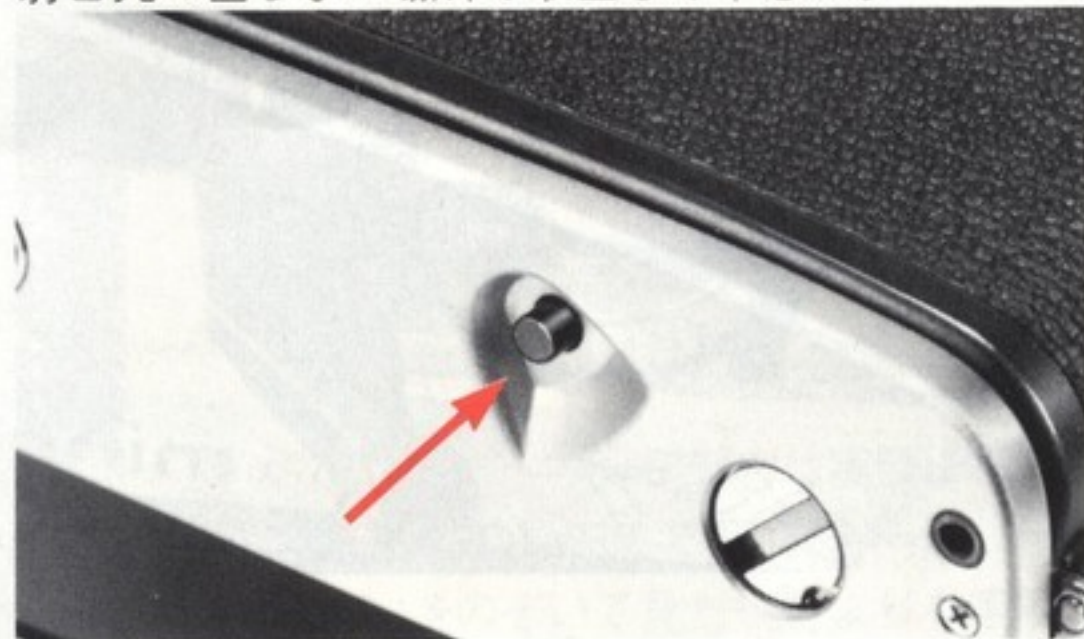
●電源の切り方



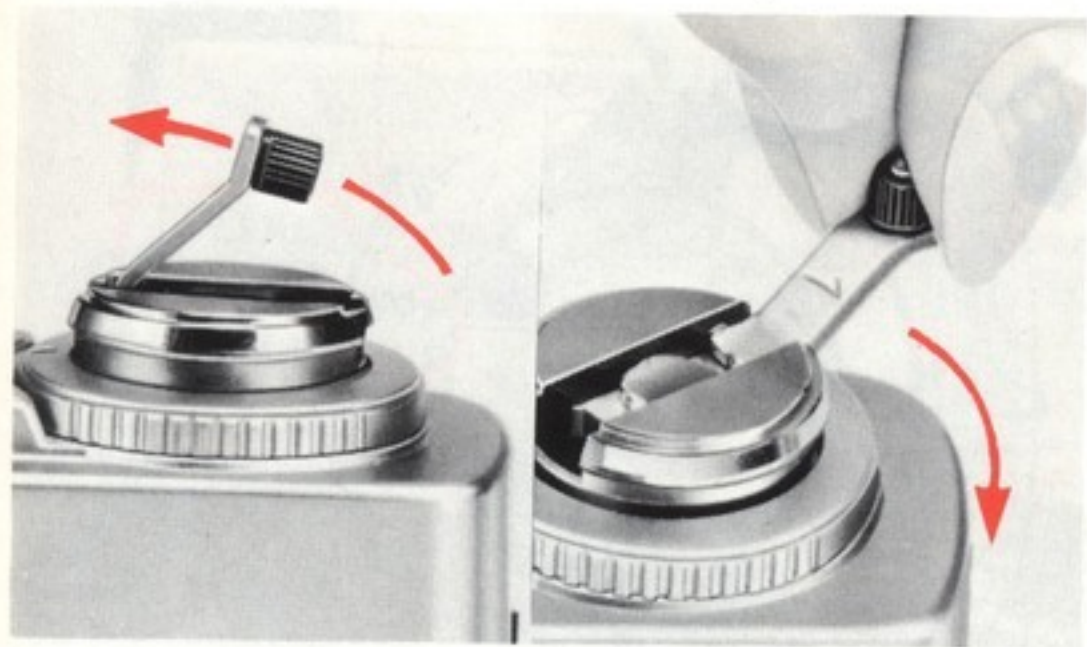
カメラを使用しない時は、切換スイッチをOFFにします。

●フィルムの巻戻し方

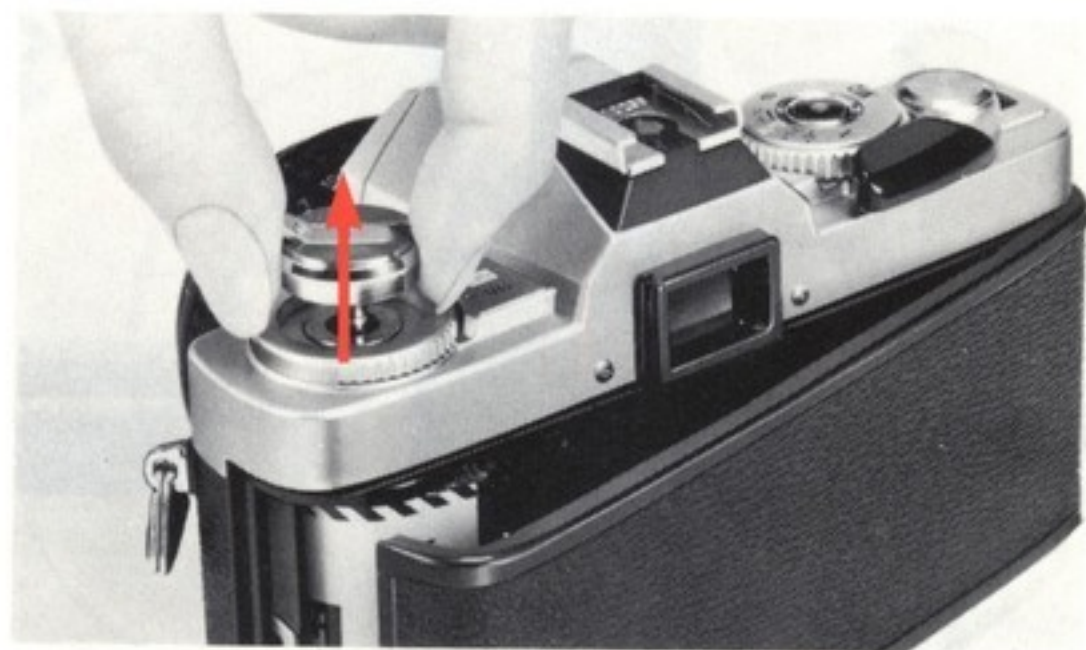
撮影の終わったフィルムは、次の要領で巻戻して、直射日光の当たらない場所では取出して下さい。



1 巻戻しボタンを押込みます。

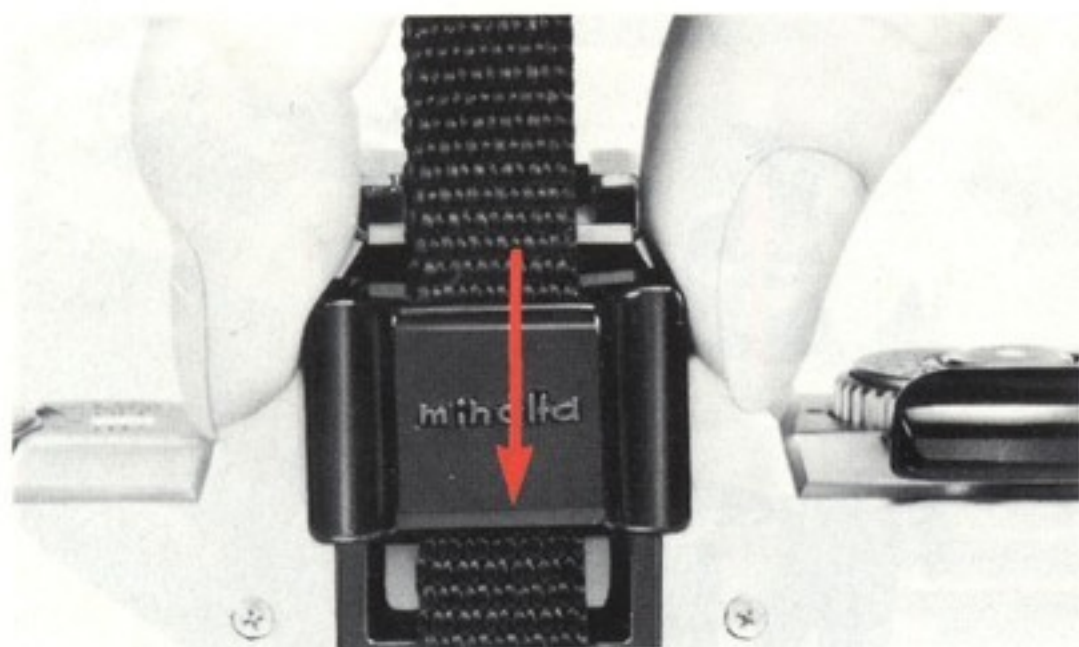


2 巻戻しクランクを起し、フィルムシグナルが見えなくなるまで回します。



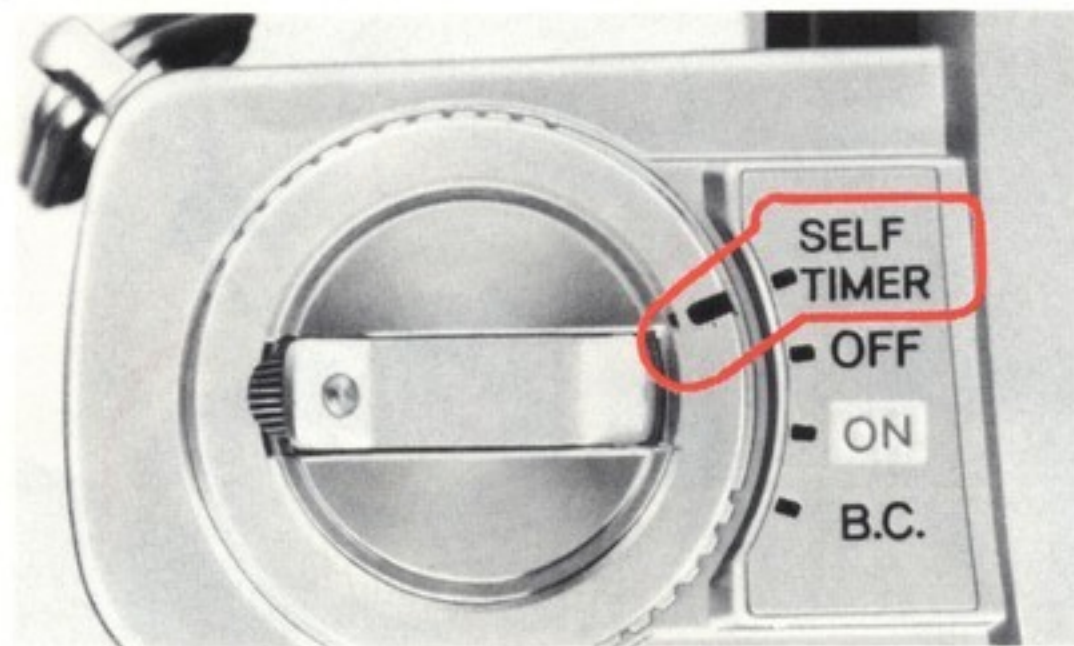
3 裏ぶたを開けてパトローネを取出します。

●セルフタイマーの使い方



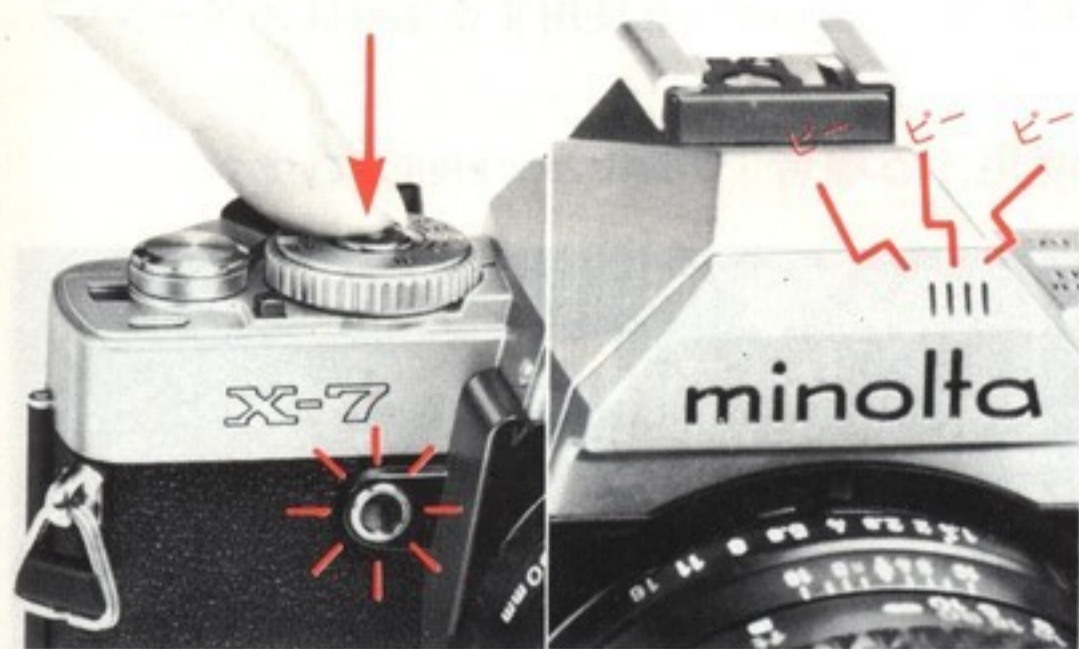
- 1 フィルムを巻上げ、ピントを合せます。
- 2 接眼枠の溝に付属のアイピースキャップをはめ込みます。

★セルフタイマーを用いて自動露出撮影する時は、アイピースからの逆入光を防止するため、アイピースキャップをして下さい。



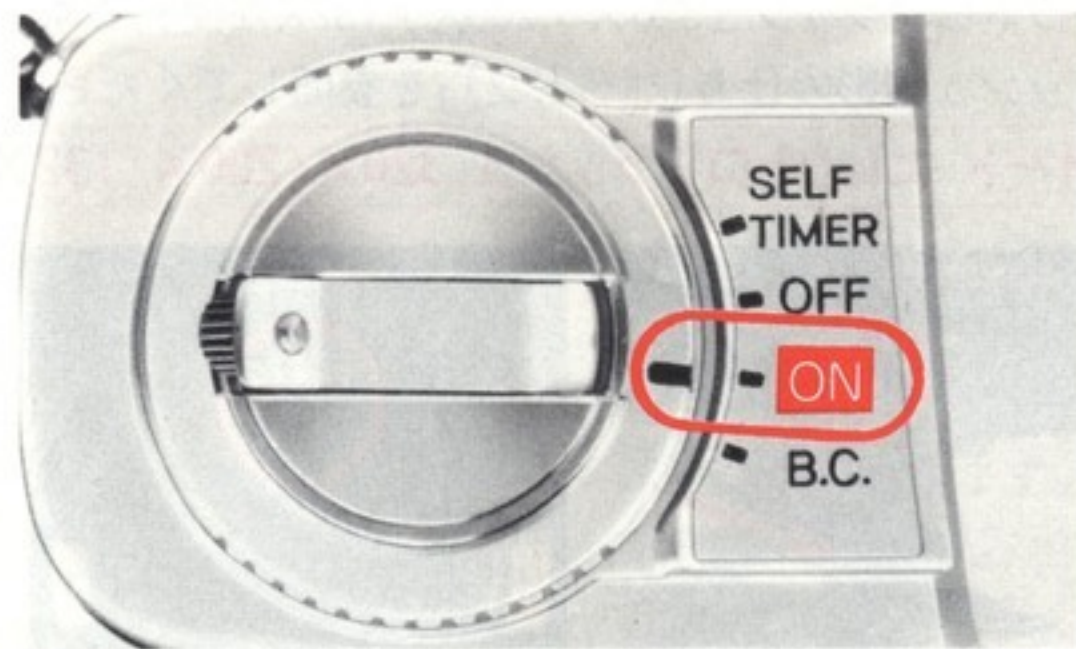
- 3 切換スイッチをSELF TIMERにセットします。

★セルフタイマーは、シャッターダイヤルがB (バルブ) の位置では作動しません。



4 シャッターボタンを押します。

- 音と光が作動を表示し、約10秒後にシャッターが切れます。
- 音と光が作動表示をしない時は1/1000秒より速いシャッター速度(高輝度連動外)になっていますので、絞りをセットしなおして下さい。



5 セルフタイマーの撮影が终れば、切換スイッチは、OFFまたはONにします。

- SELF TIMERのままですと、次の撮影もセルフタイマー撮影となります。

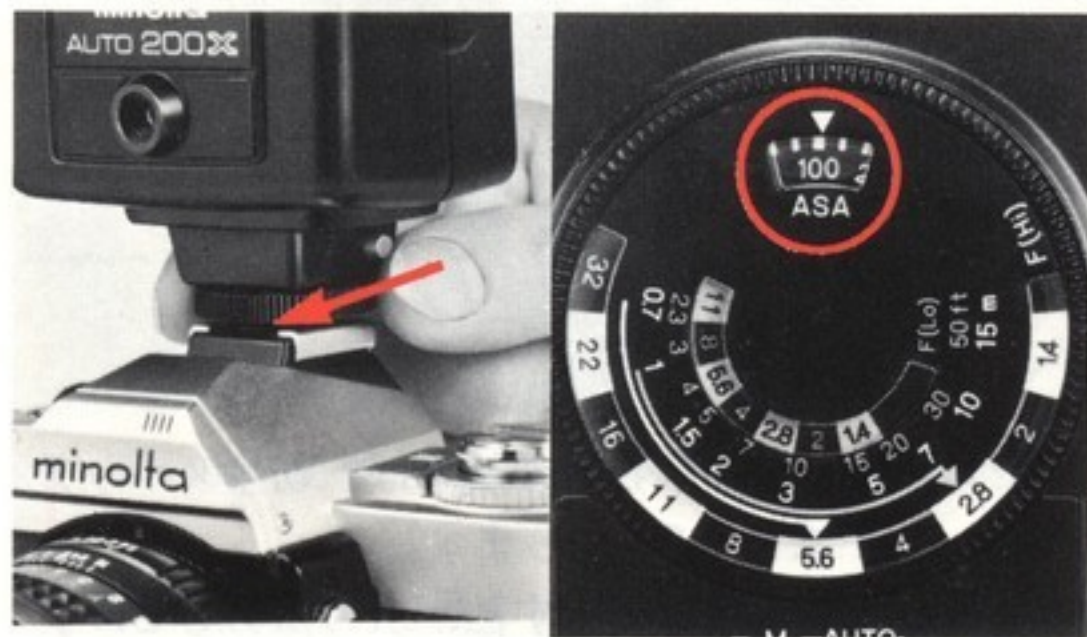
●フラッシュ撮影の仕方(パート1)

詳しくは、使用するフラッシュの使用説明書
をご覧ください。

暗い部屋や夜の撮影(バルブ撮影を除く)には、フラッシュを使いましょう。X-7には、ミノルタ オートエレクトロフラッシュ320X / 200X / 132Xが便利です。それ以外のフラッシュを使用する場合は36ページ『フラッシュ撮影の仕方(パート2)』を参照してください。

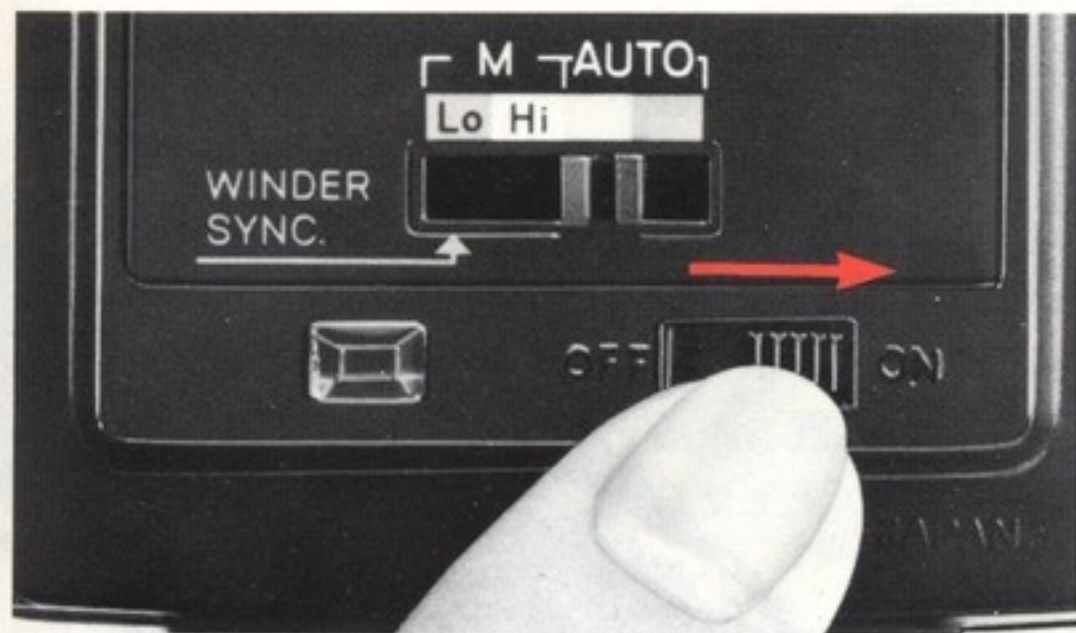
オート エレクトロフラッシュ 320X/200X/132Xを使用する場合

(写真は200Xを使用しています。)



- 1 ホットシューにフラッシュを取付けます。
●シャッターダイヤルはAUTOのままでOK。
- 2 フラッシュの露出計算盤に使用フィルムの感度を合せます。

- 3 フラッシュのA-M切換スイッチをAUTOに合せます。
- 4 レンズの絞りをセットします。



5 フラッシュの電源スイッチをONにします。

6 充電が完了したことを確認します。

- 充電完了後、シャッターボタンに指を触れると、ファインダー内の1/60秒を示す光が点滅します。
- 充電完了と同時にアラームが鳴りやみます。

7 シャッターボタンを押して撮影します。

- シャッターは自動的に1/60秒で切れます。
- シャッターダイヤルがB(バルブ)の時は、シャッターボタンを押している間シャッターが開いています。

応用操作編

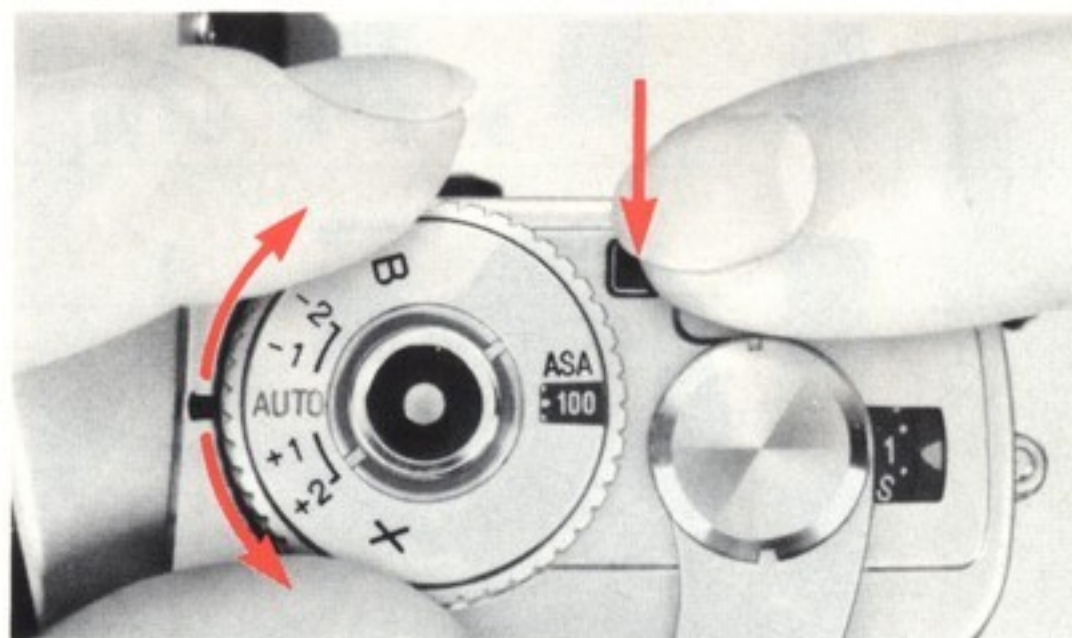


●露出補正の仕方

逆光や窓ぎわなど、周囲が非常に明るい所で人物(被写体)を撮影すると顔が暗くなり、スポットライトの当たった人物を背景を入れて撮影すると顔が白っぽくなります。

このような時は、露出の補正をすれば、適正な写真が写せます。

露出の補正は、標準値(シャッターダイヤル指標にAUTOをセットした時)に対して露出オーバー(過度)側、露出アンダー(不足)側とも2段階までできます。露出オーバーにしたい時は(+)側へ、露出アンダーにしたい時は(-)側へシャッターダイヤルを回します。



1 オートロックボタンを押したまま、希望する方向へシャッターダイヤルを回します。

★露出の補正は、+2または-2の範囲を超えないようにして下さい。

2 露出の補正をして撮影した後は、必ずシャッターダイヤル指標にAUTOを合せます。

補正しない時



補正した時(+2)



●補正量を決めにくい場合は、前後に1/2段程度ずつ補正值を変えて、2~4枚撮影してみてください。

露出補正の例

被写体	露出補正量
逆光のポートレート 空のたくさん入った風景	+1~+2
雪上の人物 空をバックに入れた人物	+1 (画面の中の雪や空の部分が少ない時は、補正しなくてもかまいません)
スポット光を浴びた人物 バックが暗い時	-1~-2
白い紙に黒い文字の複写	+1~+2 (この場合、被写体によって異なりますので、実際にテスト撮影してから補正值を決めることをお勧めします。※)

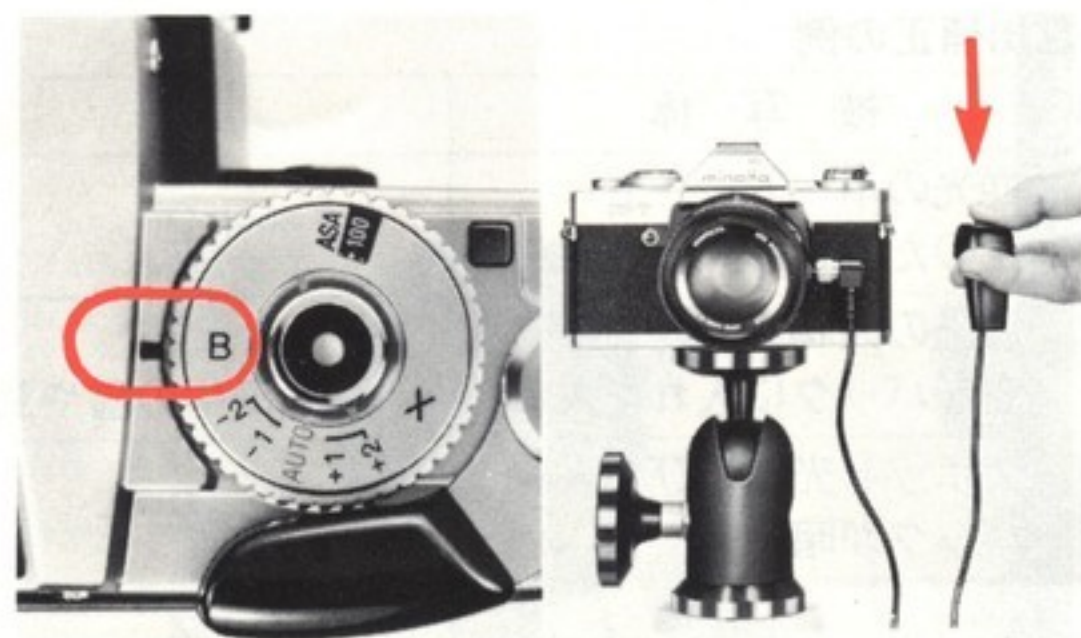
※特に複写用フィルムの場合は、撮影状況や現像条件、フィルム乳剤番号によって結果が変わり、+2の露出補正でも補正不足の場合があります。

★R60(整色用)のフィルターを取付けて撮影する場合は、+1/2段の露出補正を(シャッターダイヤルのAUTOと+1の間のクリック位置にセット)して下さい。

●長時間露出撮影(バルブ撮影)の仕方

夜景や天体写真などを1秒より長いシャッター速度で写す場合は、シャッターダイヤルをB(バルブ)にセットして撮影して下さい。シャッターダイヤルをBにセットすれば、シャッターボタンを押している間シャッターが開いています。

★X-7の三脚取付けねじ穴の深さは5.8mmです。
三脚を使用するとき、三脚取付けねじ穴の深さより長い三脚ねじを使用すればカメラの内部機構を破損するおそれがありますのでご注意ください。また、ねじ込みの際、カメラを回して必要以上の力を加えないでください。



- 1 シャッターダイヤルをB(バルブ)に合せます。
- 2 シャッターボタンを押して撮影します。
(写真はリモートコードを使用しています。)
●新品電池を使用すれば、最長約3時間までの撮影ができます。
- 3 B(バルブ)撮影をした後は、シャッターダイヤルをAUTOに合せます。

4秒



8秒



●シャッター速度を先に決めて写す方法

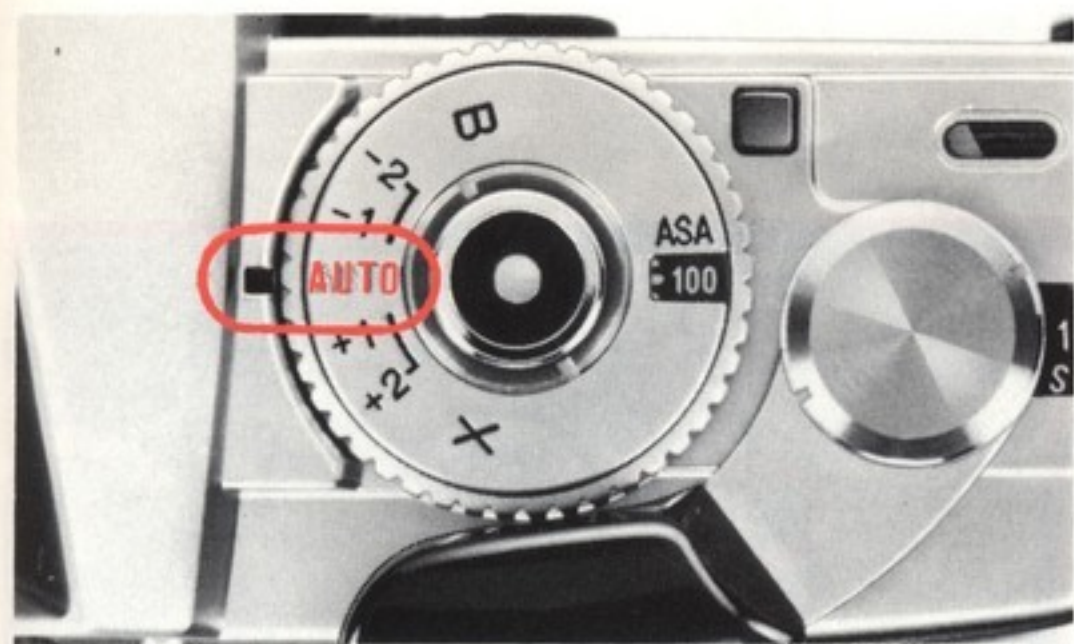
この方法は、スポーツなどの動きのある被写体を、低速シャッターでブラして動感を表現したい時や、高速シャッターで静止させたい時に適しています。

流動感を表現したい時



動きを止めたい時





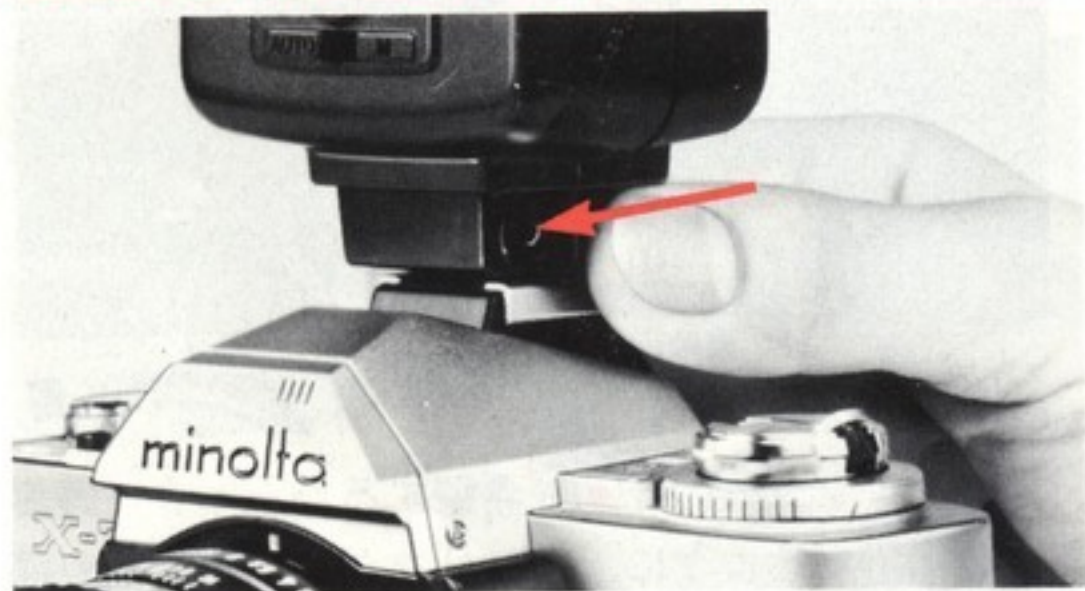
- 1** シャッターダイヤルのAUTOを指標に合せます。
- 2** 構図を決めて、ピントを合せます。



- 3** ファインダーの光(●)が希望するシャッター速度を指示するように、絞りリングを回して絞り値をセットします。
- 4** シャッターボタンを押して撮影します。

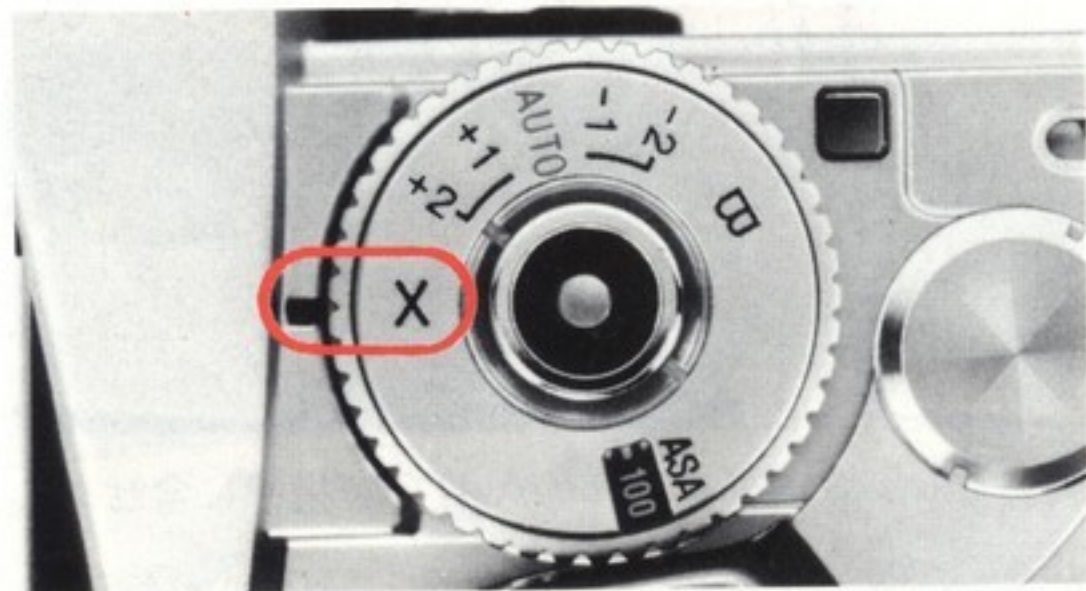
●フラッシュ撮影の仕方(パート2)

オート エレクトロフラッシュ320X/200X/132X
以外のフラッシュを使用する場合



1 ホットシューにフラッシュを取付けます。

●コード式のフラッシュを使用する時は、シンクロナイザターミナルに差込みます。



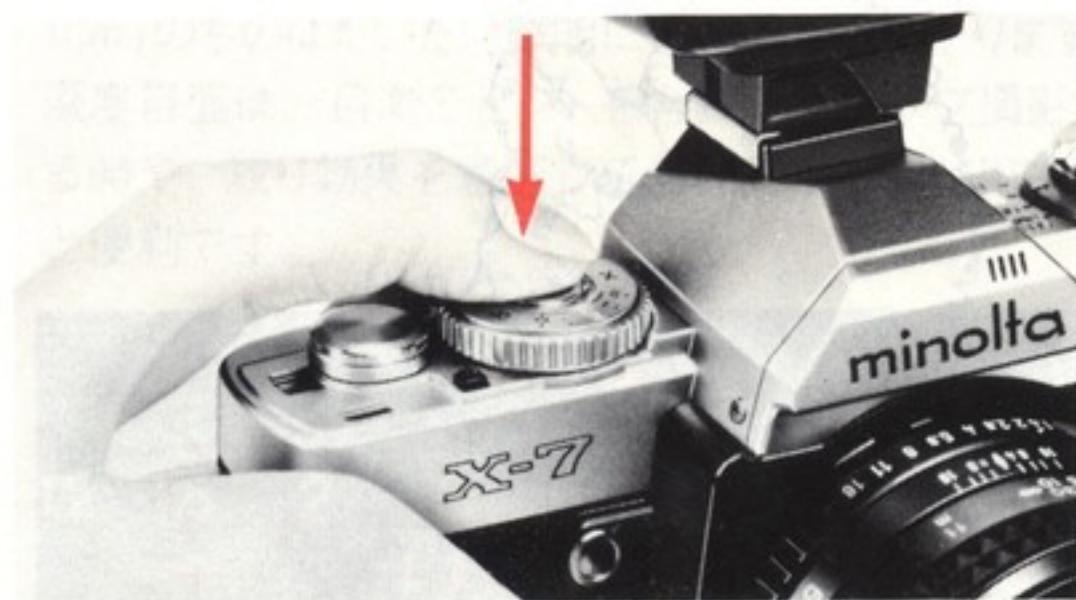
2 シャッターダイヤルをXに合せます。

3 フラッシュのガイドナンバーと撮影距離を基準にして絞りを決め、レンズの絞りをセットします。

絞りの決め方は、下の式から絞り値を求めます。端数がある場合には、それより開放寄りに近い絞り値で撮影します。

$$\text{絞り値 (FNo.)} = \frac{\text{ガイドナンバー (m)}}{\text{撮影距離 (m)}}$$

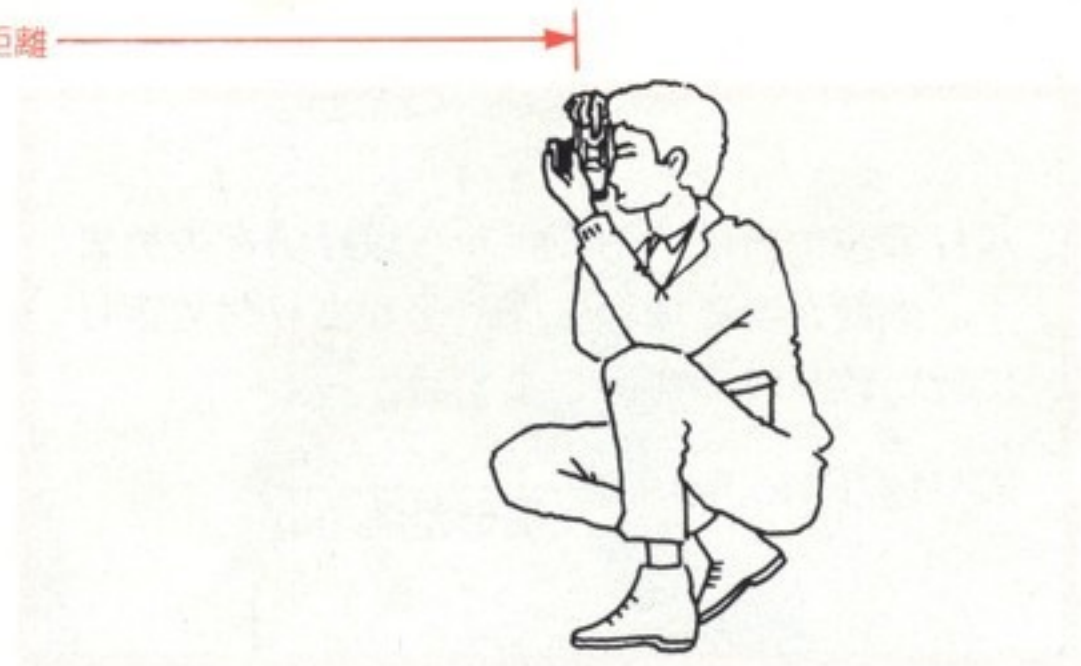
- オート エレクトロフラッシュを使用する場合は、その使用説明書に従って下さい。



- 4 シャッターボタンを押して撮影します。

●被写界深度について

被写体にピントを合せると、鮮明に写るのはその距離のものだけでなく、その前後にも鮮明に写る範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。




被写界深度には、次のような性質があります。

- ①絞りを絞り込むほど被写界深度は深くなり、鮮明に写る範囲が広がります。
- ②焦点距離の短いレンズほど深くなります。
- ③ピントを合せた被写体の前方は浅く、後方は深くなります。

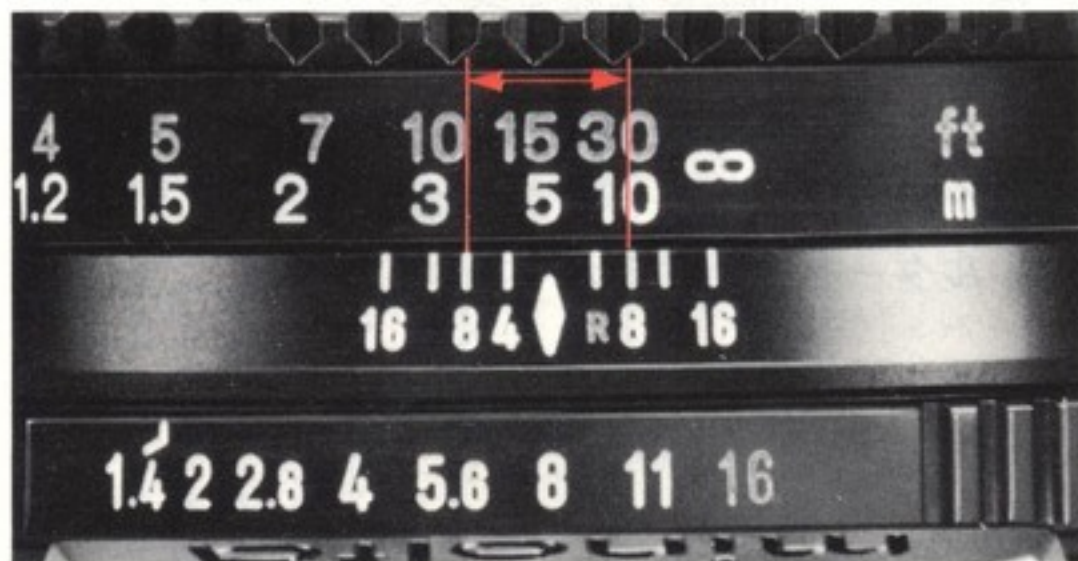
被写界深度を確認する方法には、次の2通りがあります。

- ①レンズ鏡胴の深度目盛による方法
- ②各レンズの被写界深度表を見る方法(レンズ購入時に同封されている被写界深度表参照)

●深度目盛

被写界深度は各レンズの深度目盛でもわかります。例えば、撮影距離が5mで、絞りをF8にセットした場合、マークの両側にある8の範囲内(約3.5~10m)のものはだいたい鮮明に写ることがわかります。深度目盛は、目測でピントを合わせてスナップ撮影する時や、絞り効果を意図して撮影する時に利用すると便利です。

ピントの合う範囲



F1.4



F11



●赤外線写真撮影(レンズのRマークについて)

白黒赤外フィルムの場合

O56またはR60フィルターを用いて撮影します。赤外線は、通常撮影する可視光線よりも波長が長いいため、ファインダーでピントを合せただけではフィルム面でピントが合いません。そのため、ほとんどのロッドコールレンズには、深度目盛の所に“R”で、赤外線用ピント補正の位置を表示しています。

赤外線写真を撮影する場合は、一度フィルターなしでピントを合せた後、◆指標に合致した距離目盛の数値を読み取り、Rマーク(赤外線指標)までズラして、フィルターを取付けてから撮影します。



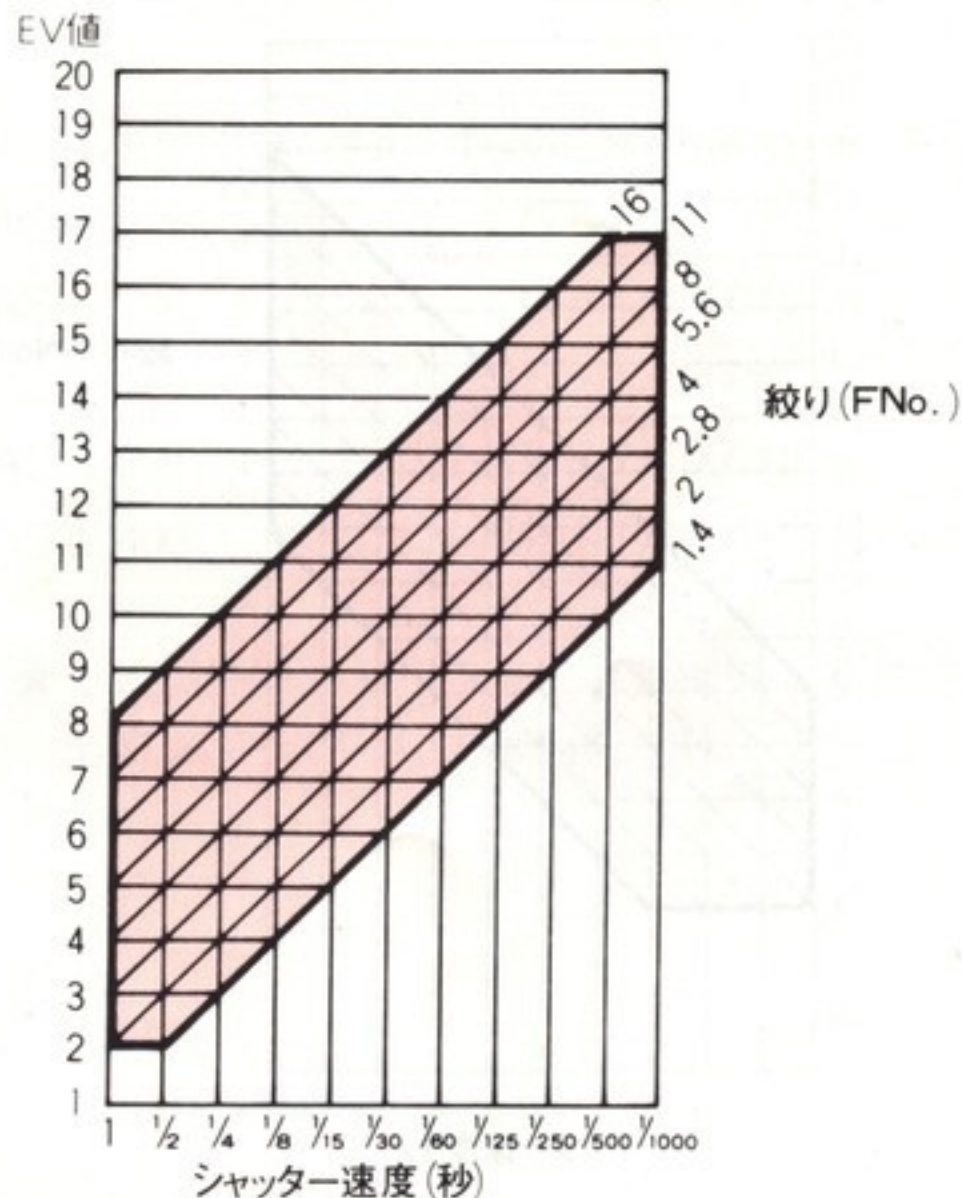
- Rマークは赤外線波長768nmで設計されたものです。赤外ストロボの中には、Rマークにズラしただけでは適合しないものもありますので、確認のうえお使い下さい。
- 撮影する時は、赤外フィルムの使用説明書に従って、露出を決めて(シャッターダイヤルをXにセットし、絞りで調節して)から撮影して下さい。

●連動範囲について

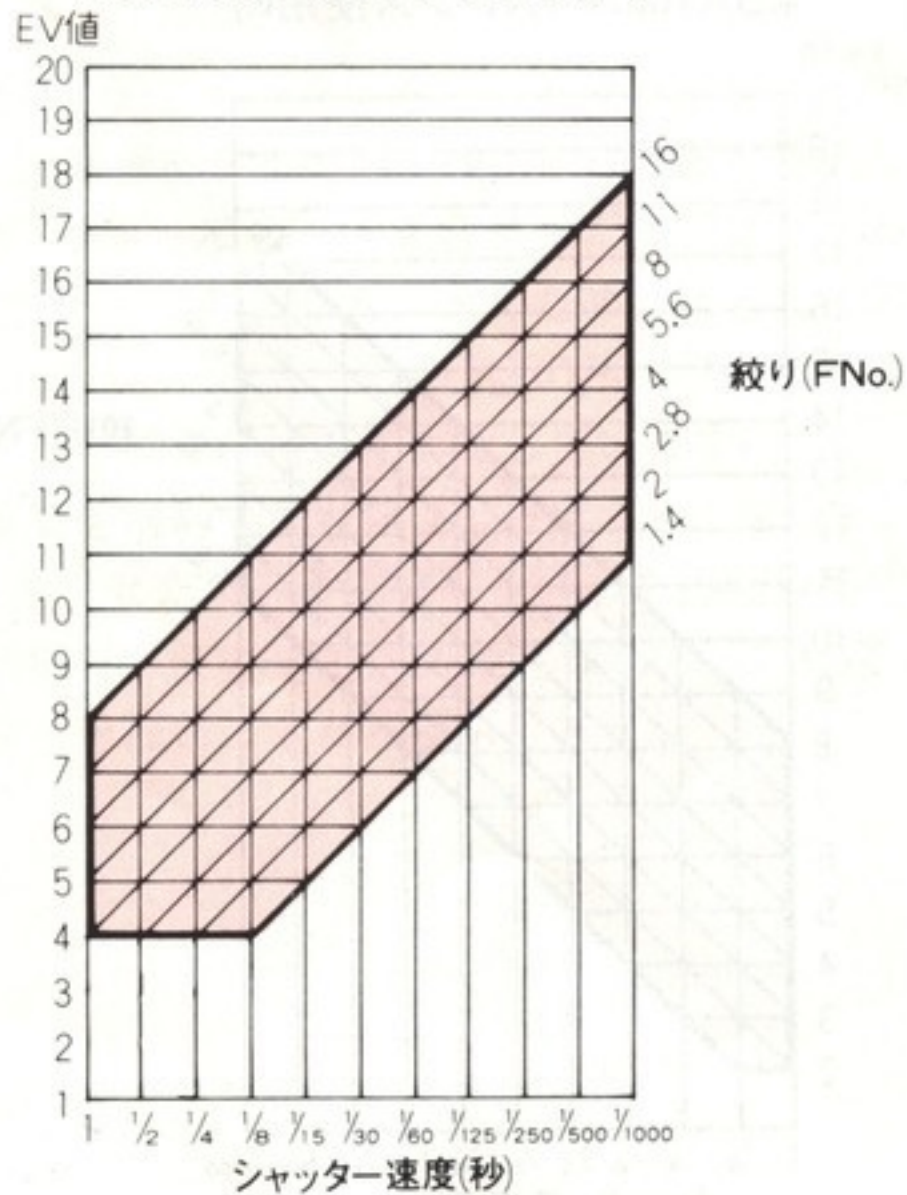
1. 開放測光の場合 (F1.4レンズ使用時)

シャッター速度は、1秒から1/1000秒まで無段階に自動的に決ります。連動範囲はF1.4レンズで、ASA100の時EV2~17です。またASA25の時はEV1~15、ASA400の時はEV4~19となります。ただし、EV19はF22、1/1000秒またはF32、1/500秒の組合せが可能なレンズの場合で、最小絞りがF16の標準レンズではEV18 (F16・1/1000秒) までが連動範囲となります。

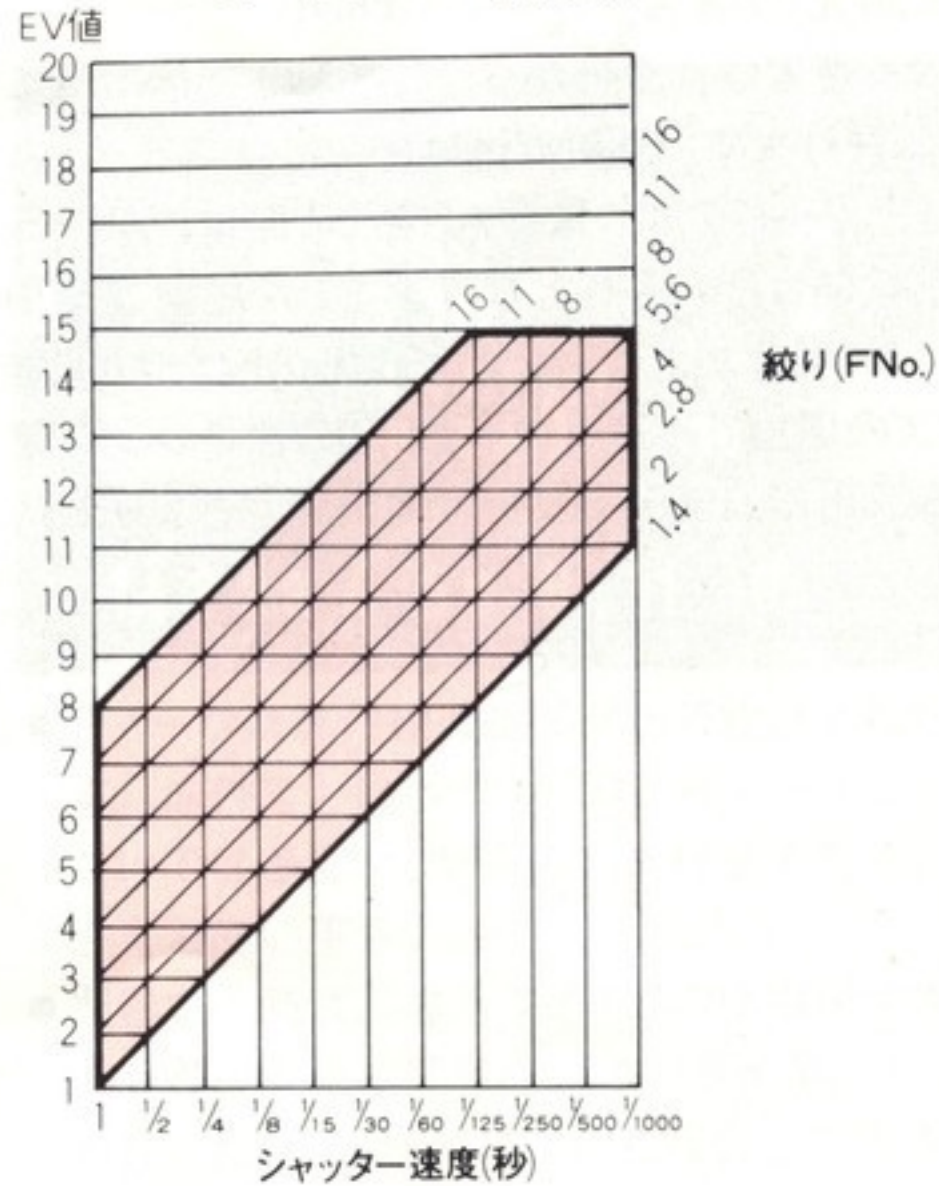
ASA100、F1.4レンズ使用時



ASA400、F1.4レンズ使用時



ASA25、F1.4レンズ使用時



2. 絞込み測光の場合 (中間リングⅠ、ベローズⅡ/M、リ バースリングⅠ、オートベローズⅢなどの付属品を使用する場合)

絞込み測光の場合の連動シャッター速度は、フィルム感度によって異なり(右表参照)、それぞれ連動範囲のシャッター速度で行なって下さい、

フィルム感度	付属品使用の場合の自動露出連動シャッター速度
ASA 25	1秒～1/1000秒
ASA 50	1秒～1/1000秒
ASA 100	1/2秒～1/1000秒
ASA 200	1/4秒～1/1000秒
ASA 400	1/8秒～1/1000秒

★上記以外のシャッター速度で撮影すると、露出アンダー(不足)の写真になります。

●付属品を使用する場合の自動露出撮影の仕方

クローズアップレンズ、MCオート中間リング、オートベローズ I を使用する場合は、次の表に従って下さい。

使用 付属品	使用 レンズ	MD レンズ	MC レンズ	オート プリセット レンズ	ハンド プリセット レンズ
クローズアップ レンズ		使用可	使用可	一部使用可※	使用可
MCオート 中間リング		使用可	使用可	一部使用可※	使用可
オート ベローズ I		★	一部使用可※	一部使用可※	使用可

※：レンズ側に絞込み機構のあるレンズは、撮影する絞り値をセットし、絞りを絞込んだ状態でシャッターを切れば、シャッターダイヤルがAUTOの時、自動露出撮影ができます。

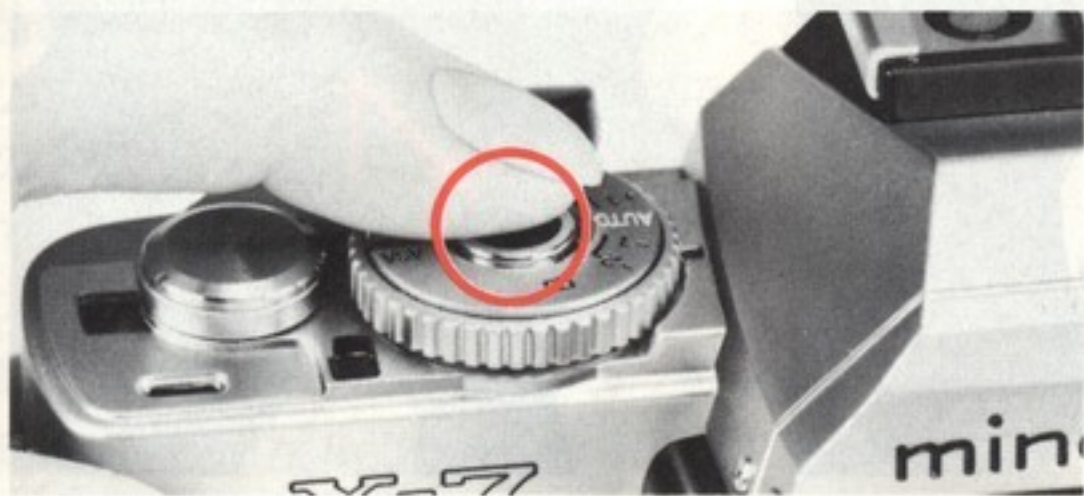
★オートベローズ I とMDレンズの組合せでは自動露出撮影できません。

★旧オートプリセットレンズの内、レンズ側に絞込み機構のないレンズは使用できません。詳しくは、各地サービス・ステーションにご相談下さい。

●中間リング II, ベローズ III / IV, オートベローズ III, リバースリング II を使用する場合は使用レンズに関係なく自動露出撮影ができます。

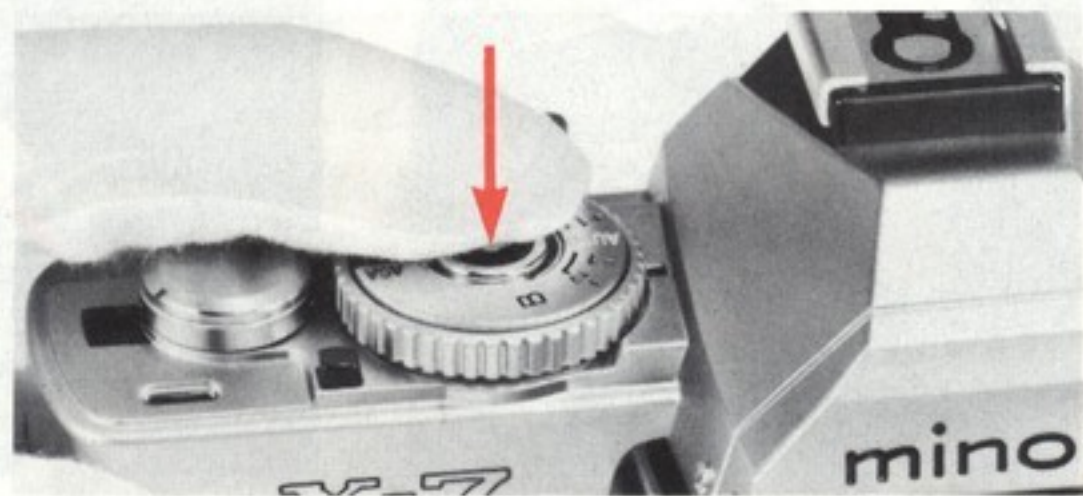
●シャッターボタン(測光スイッチ)について

シャッターボタンに軽く指が触れると測光が開始されます。この時、セットした絞り値に対する適正なシャッター速度がファインダー内にLED(●)で表示されます。



- 1/60秒未満のシャッター速度の場合には、ブザーが鳴ります。

★低温度下で使用したり、指が極度に乾いていると、シャッターボタンに触れても表示が出ないことがあります。その時は、シャッターボタンを少し押して下さい。



- 手袋など指を覆う物をはめている時は、シャッターボタンを少し押すと測光が開始されます。

★シャッターボタンが汚れている場合は、シャッターボタンに指が触れても表示が出ないことがあります。切換スイッチをOFFにして清潔な布できれいにふきとって下さい。

●ケース(別売)の着脱

1. ケースの取付け



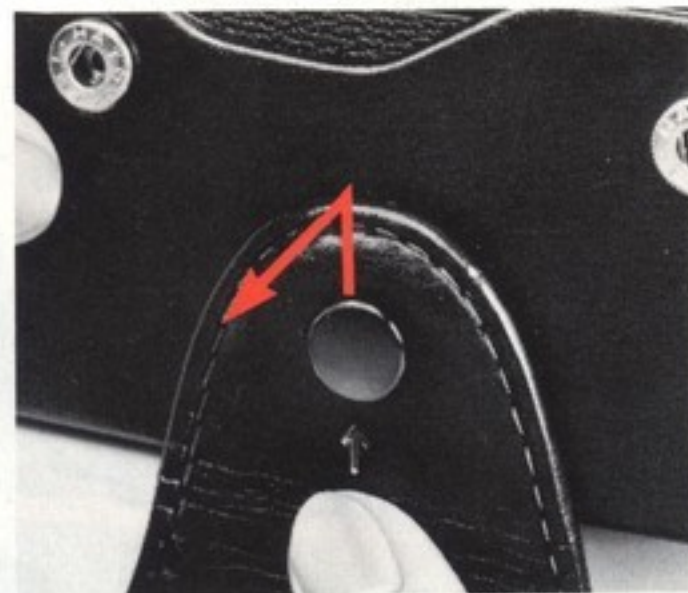
カメラをケースに入れ、ケースのフック(左右両側)を三角環に引っ掛けて、スナップを止めます。

2. 前カバーの取付け



ケース連結金具の突起をケースの穴に差込んでから、下方にスライドさせます。

3. 前カバーの取外し



前カバーを上方にスライドさせてから、手前に引いて外します。

●専用アクセサリ

1. オートワインダーG

オートワインダーGは自動巻上げ装置です。X-7に取付けて使用すれば、常にフィルムが巻上げ完了状態になっており、シャッターボタンを押すと毎秒約2コマの連続撮影や1コマ撮影ができます。巻上げの煩わしさから解放され、作画に集中できるばかりでなく、常に巻上げ状態にあるため、撮影のチャンスを逃がしません。

電源には、単3形電池(マンガン乾電池、アルカリ乾電池、ニッケルカドミウム蓄電池のいずれか)4本を使用します。



2. オート エレクトロフラッシュ320X/200X/132X

主な特長

- ①ファインダー内で充電完了がわかり、充電完了後シャッターを切るとシャッター速度を同調速度に制御します(320X/200X/132X)
- ②ワインダーで連続発光しても同調する発光性能を備えています(320X/200X)
- ③ガイドナンバーがオートでも、マニュアルでも可変できます(320X)
- ④バウンス照明ができます(320X/132X)
- ⑤調光距離範囲確認ランプを備えています(320X/132X)
- ⑥ブラケットタイプのフラッシュにもなります(320X)
- ⑦ガイドナンバーを大きくするテレパネルが使用できます(320X)
- ⑧ニッケルカドミウム蓄電池が使用できます(320X/200X/132X)
- ⑨カラーパネルが使用できます(320X/132X)



3. データバックG

データバックGをX-7の裏ぶたと交換するだけで、撮影時に日付などのデータを画面内に写し込むことができます。

データ文字は年・月・日の他にアルファベットや空白部分もあり、それぞれ目的に合わせてセットできます。また、光量調節ができるため、フィルムタイプが変わっても、適切な光量で鮮明なデータを写し込めます。各種資料の作成や研究用のデータなどの幅広い撮影分野に活用できます。

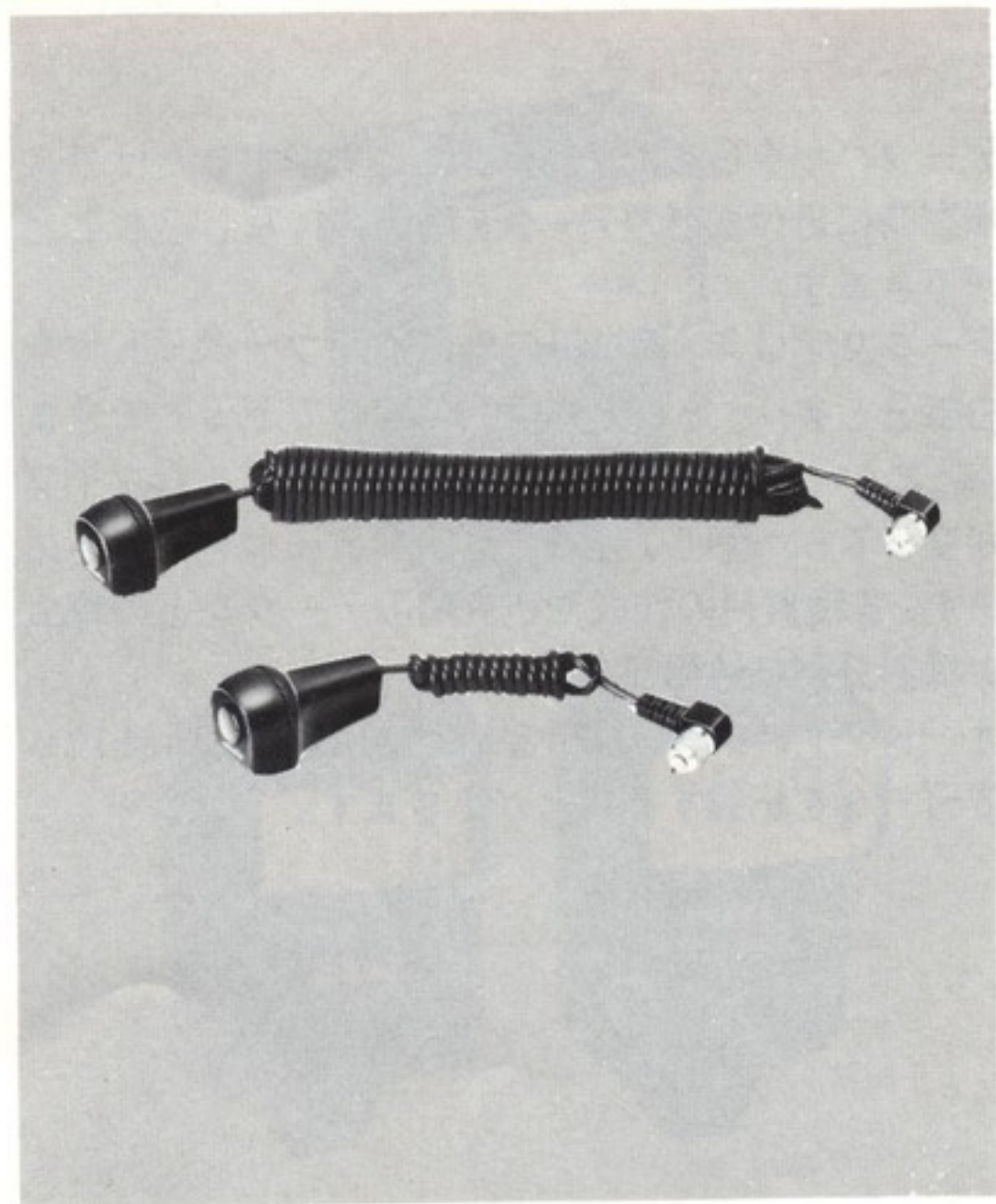
オートワインダーGと組合せて使用すると、連続してデータを記録することができます。



4. リモートコードS/L

X-7は電磁レリーズを採用していますので、リモートレリーズターミナルにリモートコードを取付けるだけで、遠隔操作ができます。コードの長さはSが50cm、Lが5mです。リモートコードSは、三脚などを用いてシャッターを切る時にお使い下さい。カメラぶれを防止したい時に有効です。

リモートコードLは、野外の観察記録(野鳥、動物など)撮影で、被写体に近づけない時に最適です。



5. カメラケース

ソフトケースCS-50DB

データバックGを装着したままで収納できます。

カメラケースW

オートワインダーGを装着したままで収納できます。

標準ズームケース

MDズームロックール35~70mmF3.5/24~50mmF4、
または100mm以下のレンズを装着したままで収納できます。

フロントケース100S

MDズームロックール35~70mmF3.5/24~50mmF4または
100mm以下のレンズを装着したままで収納できるフ
ロントケース(前カバー)です。

ソフトケース200S

MDテレロックール200mm(55mm径)以下のレンズを装着
したままで収納できます。

☆各ケースでX-7に特殊レンズや一部の一般レンズの装着状態
では収納できないことがありますのでご注意ください。

●手入れの仕方

①カメラの清掃は、からぶきで

カメラは、ホコリをきらいますので、ときどきカメラの清掃をして下さい。

まず、ブロアーでホコリを吹きとばしてから、柔らかい清潔な布で軽くふき取って下さい。カメラボディにシンナー、ベンジンなどの有機溶剤は絶対に使用しないで下さい。

②レンズの清掃は、レンズクリーナーで

レンズを汚さないように、ご注意下さい。もし汚れた場合、ブロアーでホコリを除き、柔らかい清潔な布で軽くふき取って下さい。それでも取れない時には、レンズクリーニングペーパーに市販の液体クリーナー（コダック製、富士フイルム製など）をごく少量つけて軽くふいて下さい。

液体クリーナー以外は、絶対に使わないで下さい。

③ミラーには、手を触れないで下さい。

小さなゴミや汚れがあっても、ミラーの機能にはほとんど影響がありません。

手でミラーを上げ下げすると、調整不良になることがありますから、ご注意下さい。

④海岸で撮影した後は

カメラの表面を柔らかい布でよくふき、塩分などをふき取って下さい。

⑤ボディのバヨネット座板面を清掃する時

溶剤を含んだ布でボディのバヨネット座板面をふくと、潤滑剤が取れて、レンズの着脱が重くなりますので、汚れた場合は、清潔な布で軽くふき取るだけにして下さい。ご使用中にレンズの着脱が重くなった場合は、最寄りの各地サービス・ステーションにご相談下さい。

ご自分でバヨネット座板面に潤滑剤を塗る場合は、清潔な布にオリーブ油をごく少量含ませて軽く塗って下さい。

●保管の仕方

①2週間以上使用しない時

できるだけ電池を取出しておいて下さい。電池の液もれでカメラを害することがあります。

②カメラの保管場所は

高温・多湿の所やホコリっぽい所は避けて、風通しの良い所に保管して下さい。乾燥剤(シリカゲルなど)といっしょに保管すれば、より安全です。高温(50℃以上)の場所や薬品を扱う所、ナフタリン入りのタンスは避けて下さい。

③カメラを持ち運びする時

自動車のリアウインドやトランクの中などに放置すると、真夏の炎天下では極度の高温になり、カメラを故障させることがありますので、このような場所には、カメラを放置しないで下さい。

●取扱い上の注意

- ①カメラは精密機械ですから、落したり、大きな衝撃を与えないで下さい。また、カメラを水中に落したり、カメラ内部に水滴が入ったりすると、内部の手の届かない所まで水分が回ってしまい、部品がサビついてしまうことがあります。こうなると修理不能か、修理ができていても修理費用が高くなりますので、水辺で使用する時は十分ご注意下さい。
- ②極めて低温で使用する時は、正規の作動をしないことがありますので、カメラを徐々に暖めてから使用して下さい。特に、急激な温度の変化は、カメラ内部に水滴を生じる危険性がありますので、絶対に避けて下さい。

●アフターサービスについて

- ①本製品の補修用性能部品は10年間を目安に保有しております。
- ②アフターサービスに関しては「アフターサービスのご案内」に詳しく記載しておりますので、ご覧下さい。

●主な性能

カメラタイプ	電子制御式 35mm フォーカルプレーンシャッター付 一眼レフAEカメラ
A E 方式	絞り優先式
使用フィルム	J135 ロールフィルム パトローネ入り
画面サイズ	24mm×36mm
レンズマウント	ミノルタ バヨネット マウント
標準レンズ	MD ロッコール 50mm F1.2 MD ロッコール 50mm F1.7 MD ロッコール 50mm F1.4 MD ロッコール 45mm F2
フォーカシングスクリーン	中央部 スプリットマイクロプリズム 周辺部 マット式
ファインダー視野率	93% (標準画面24mm×36mmに対して)
ファインダー倍率	0.87倍 (50mm標準レンズ∞の時)
ファインダー内表示	シャッター速度目盛、シャッター速度表示用LED、シャッター速度連動域外LED、フラッシュ充電完了シグナル
測光方式	TTL開放測光、中央部重点的平均測光
自動露出範囲	EV2~EV17(ASA100、F1.4レンズ使用時)1/60秒未満の低速時に音によるカメラぶれ警告
ASA感度範囲	ASA25~ASA1600(シャッターダイヤル引上げ式、1/3段ごとにロック付)
露出補正装置	標準値より±2EV(無段階)の範囲で補正可能、1/2段ごとにクリック付
シャッター	電子制御式フォーカルプレーンシャッター(横走り)
シャッター速度	オート 1秒~1/1000秒(無段階) マニュアル X(1/60秒)、B(バルブ)

シャッターリリース	電磁リリース、電池電圧低下時と1/1000秒を超える高速シャッター時にリリースロック
セルフタイマー	シャッターボタンによるスタート 作動時間 約10秒、音と光で作動表示
フラッシュシンクロ	X接点
アクセサリシュー	ダイレクト接点(感電防止装置付) シンクロオートコントロール接点(専用のオートエレクトロフラッシュ320X/200X/132X用)、
シンクロターミナル	JIS B型ソケット
フィルム巻上げ	一作動レバー巻上げ式、巻上げ角130°、予備角30°、オートワインダーG装着可能
フィルムカウンター	自動復元順算式
フィルム巻戻し	巻戻しボタンおよび巻戻しクランクによる方式、巻戻しボタン自動復元
ミ ラ ー	スライドアップ式クイックリターン
裏 ぶ た	裏ぶた開閉ノブ引上げ式 ワンタッチロック式 着脱可能
使 用 電 池	銀電池G-13型(JIS SR44)相当品、1.5V 2個
電 源 ス イ ッ チ	切換スイッチ式、ON、OFF
測 光 ス イ ッ チ	シャッターボタン タッチスイッチ式
バ ッ テ リ ー チ ェ ッ ク	切換方式によるランプ表示式
そ の 他	フィルムシグナル付、リモートリリースターミナル付、電池ケース付、アイピースキャップ付
大 き さ	138mm(幅)×88mm(高さ)×52mm(奥行)
重 量(ボ デ ィ の み)	495g(電池別)

●ここに記載の性能および製品の外観は、都合により予告なく変更する場合があります。

Minolta

ミノルタカメラ株式会社

〒541 大阪市東区安土町2丁目30番地(大阪国際ビル)

☎(06) 271-2251(代)

〒105 東京都港区浜松町2丁目4番1号(世界貿易センタービル)

☎(03) 435-5511(代)

NO. HJC20BN